

専攻科1年 令和7年度(2025)

シラバス

Syllabus「シラバス」は、授業項目、講義案を意味します。この Syllabus には、皆さんが、今年度に学習する授業の科目名・単位数をはじめ、学習内容やねらい、評価規準等が書かれています。カリキュラムは、学習の積み上げを意識して、基礎分野、専門基礎分野、専門分野から構成されています。そして、社会の変化とともに看護師に求められている能力を養うために、各分野の教育内容を強化しています。

単位とは一定の質の勉学の量を、示す基準となるものです。単位数は保健師助産師看護師学校養成指定規則により、国家試験受験に必要な数が定められています。また、単位の計算方法は、高等学校の場合と異なり、専攻科においては大学設置基準第21条第2項および保健師助産師看護師学校養成所指定規則により、以下のように定められています。

単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法（講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれか）に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位として単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。

つまり、1単位と計算される勉学の時間量には、教室（学校）内における勉学だけでなく、自主学習を含めて計算されることになっています。つまり、受け身ではなく、求められる教育内容を自ら学んでいかなければなりません。生涯学び続けることは、専門職には欠かせない要件です。1時間毎の授業を大切に、自主学習で確実な知識や思考力を身に付けてください。

令和7年度 入学生教育課程表

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校専攻科

教育内容		規定規則 単位数	授業科目	単位	時間	1年		2年		単位数 合計
						単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基盤	10	基礎科学	2	30	2	30			2
			統計学	2	30	2	30			2
	人間と生活・ 社会の理解		英語	6	90	4	60	2	30	6
			生涯スポーツ	1	30	1	30			1
			教育学	2	30			2	30	2
			心理学	2	30			2	30	2
			情報科学	1	30			1	30	1
			言語表現	2	30			2	30	2
	小計		10		18	300	9	150	9	150
専門基礎分野	人体の構造と機能	9	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30			1
			解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30			1
			生化学	1	30	1	30			1
	微生物学		1	30	1	30			1	
	病理学		1	30	1	30			1	
	薬理学		1	30	1	30			1	
	臨床栄養学		1	15	1	15			1	
	疾病・治療論Ⅰ		1	25	1	25			1	
	疾病・治療論Ⅱ		1	30	1	30			1	
	疾病・治療論Ⅲ	1	30	1	30			1		
	健康支援と 社会保障制度	5	ヘルスプロモーション論	1	15			1	15	1
			公衆衛生	1	15			1	15	1
			社会保障制度	2	30			2	30	2
			看護関係法規	1	15			1	15	1
小計	14		15	355	10	280	5	75	15	
専門分野	基礎看護学	4	看護学概論	1	30	1	30			1
			看護過程	1	30	1	30			1
			フィジカルアセスメント	1	30	1	30			1
			基礎看護学演習	1	30	1	30			1
	地域・在宅看護論	5	地域・在宅看護論総論	1	30	1	30			1
			地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30	1
			地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30	1
			地域・在宅看護論方法論Ⅲ	1	30			1	30	1
			地域・在宅看護論方法論Ⅳ	1	15			1	15	1
	成人看護学	4	成人健康生活支援概論	1	30	1	30			1
			急性期看護論Ⅰ	1	30	1	30			1
			急性期看護論Ⅱ	1	30	1	30			1
			慢性疾患療養生活支援論	1	30	1	30			1
	老年看護学	3	老年健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	小児看護学	3	小児健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅲ	1	30	1	30			1
	母性看護学	3	女性のライフコース支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	精神看護学	4	精神健康生活支援論Ⅰ	1	15	1	15			1
			精神健康生活支援論Ⅱ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅳ	1	15			1	15	1
看護の統合と実践	4	看護の統合と実践Ⅰ	1	15			1	15	1	
		看護の統合と実践Ⅱ	1	15			1	15	1	
		看護研究	1	30			1	30	1	
		統合ゼミ	1	30			1	30	1	
臨地実習	16	地域・在宅看護論実習	3	90	6	270	4	180	3	
		成人看護学実習Ⅰ	2	90					2	
		成人看護学実習Ⅱ	2	90					2	
		老年看護学実習	2	90					2	
		小児看護学実習	2	90					2	
		母性看護学実習	2	90					2	
		精神看護学実習	2	90			2	90	2	
		看護統合実践実習	2	90			2	90	2	
小計	46		47	1545	23	765	24	780	47	
合計	70		80	2200	42	1195	38	1005	80	

教育 内容	科学的思考の基盤	科目	基礎科学	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	化学や生物に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、専門基礎分野の生化学、生理学等と関連させながら、化学反応の仕組みや有機化合物、ヒトを含めた生物の特性について理解する。						
教科書	系統看護学講座 化学 医学書院 系統看護学講座 生物学 医学書院			評価 方法	授業への取り組み・観察実験への取り組み・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	酸化還元反応①	・酸化と還元の定義について理解する。 ・酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。	・酸化還元反応について関心をもち、電子の授受や酸化数という観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて理解している。
3 4	酸化還元反応②	・酸化剤と還元剤の反応と金属のイオン化傾向を理解する。 ・酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。	・金属のイオン化傾向や電池について理解し、具体的な金属の反応性や電池の構造について基本的な知識を身につけることができる。
5 6	光受容①	・光受容器であるヒトの眼のしくみについて理解する。 ・網膜にある光受容細胞の杆体細胞と錐体細胞のはたらきについて理解する。	・ヒトの眼のしくみについて理解し光がどのように受容されているかを理解している。
7 8	光受容②	・実験を通して盲斑のしくみについて理解する。 ・明暗順応のしくみについて理解する。	・自己の盲斑の形や大きさを実験のデータをもとに考察することができる。 ・網膜の明暗順応について基本的な知識を身につけることができる。
9 10	有機化合物①	・有機化合物の特徴と分類について知る。 ・有機化合物のあらわし方を理解する。	・基本的な有機化合物の特徴を知り、分類することができる。 ・分子式や構造式などの基本的な有機化合物のあらわし方を理解することができる。
11 12	有機化合物②	・有機化合物の命名の方法について理解する。	・有機化合物の命名には、IUPACが定める命名法と従来からの慣用名があることを知り、それらを併用することができる。
13 14	中間考査	・前半で学んだ内容の理解度を確認する。	・前半の学習内容を理解し、設問に対して適切に解答することができる。
15 16	行動①	・生物の走性が単細胞生物から脊椎動物にわたって広くみられることを知り、その種類が刺激の違いにより決まることを理解する。 ・生物の本能行動が多数の反射行動の組み合わせによって起こることを理解する。	・正負の走性の違いや、刺激の種類によって走性が光走性や重力走性などに分類されることを理解できる。 ・イトヨの攻撃行動を通して本能行動が理解できている。
17 18	行動②	・個体間の情報の伝達方法について理解する。	・ミツバチのダンスやフェロモンの学習を通して個体間の情報伝達手段について理解している。
19 20	有機化合物③	・有機化合物の基本である飽和脂肪族炭化水素について理解する。	・飽和脂肪族炭化水素のアルカンについて、その構造や命名法を理解している。
21 22	有機化合物④	・実験を通して、不飽和脂肪族炭化水素について理解する。	・不飽和炭化水素のアルケン、アルキンについて、その構造を説明することができる。
23 24	行動③	・動物が経験によって学習することについて理解する。 ・実験を通して、記憶のしくみについて理解する。	・非連合学習や連合学習、試行錯誤について理解している。 ・記憶に2つのタイプがあることを理解し、それらを説明することができる。
25 26	有機化合物⑤	・基本的な芳香族炭化水素について知る。 ・ベンゼンの反応について理解する。	・芳香族炭化水素がベンゼンとその誘導体からなることを知っている。 ・ベンゼンの付加反応や置換反応について理解している。
27 28	有機化合物⑥	・有機化合物の性質が官能基によって分類分けされることを理解する。 ・実験を通して官能基の種類により性質が異なることを理解する。	・官能基の種類により有機化合物の基本的な性質が決定することを理解し、それらにより分類分けされることを知っている。
29 30	期末考査	・学んだ内容の理解度を確認する。	・全授業の学習内容を理解し、設問に対して適切に解答することができる。

教育 内容	科学的思考の基盤	科目	統計学	単位数 (時間)	2単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	社会的存在としての人間を理解するために、社会現象やシステムを多面的にとらえる。そのため統計資料の解釈やデータ処理を活用できるようにする。多様な社会の中で幅広いものの見方ができ、人間を理解することができる能力を養う。						
教科書	薬学生のための基礎シリーズ4 基礎統計（培風館）			評価 方法	授業への取り組み・提出物 定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第2章 データの記述 データの種類	統計学の基本となるデータの 種類やデータ収集の方法 などについて知り、データ を整理し、表や図に表す方 法が理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学で何を学ぶか把握している。 ・統計学に関心を持って授業に取り組んでいる。 ・度数分布表、ヒストグラム、度数折れ線について理解している。 ・母集団と標本の特徴が分かる。
3 4	度数分布 代表値		
5 6	散布度 二次元データ		
7 8	母集団と標本		
9 10	第3章 確率分布 確率変数	統計的考え方に基づいて、 さまざまな分布について知 ることで、データの特徴や 全体の傾向を把握する力を 養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心を持って取り組んでいる。 ・平均値と標準偏差等、代表値と散布度について理解できる。 ・階級値による平均、分散を求めることができる。 ・確率分布について理解している。 ・正規分布の特徴を理解している。 ・正規分布の応用ができる。 ・前向きに演習に取り組んでいる。
11 12	二項分布・ポアソン分布 連続型の確率変数		
13 14	正規分布の特徴		
15 16	正規分布の応用		
17 18	統計量と標本分布 いろいろな標本分布		
19 20	第4章 推定と検定 検定		<ul style="list-style-type: none"> ・母平均の検定、母平均の差の検定について理解できる。 ・Z検定、t検定について理解できる。 ・有意水準（危険率）について理解できる。 ・積極的に演習に取り組んでいる。
21 22	母平均の検定		
23 24	母平均の差の検定		
25 26	第5章 いろいろな検定		
27 28	適合度と独立性の検定	いろいろな検定の方法を知り、さまざまな角度からデータを分析する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・母集団の特徴やデータの目的によって検定方法が異なる事を理解する。 ・いろいろな検定方法を理解する。
29 30	考査対策	講義内容を復習し、知識の定着につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義で学んだことを理解しようと努力している。

教育 内容	人間と生活・ 社会の理解	科目	英語	単位数 (時間)	4 単位 (60時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	看護・医療現場で求められる基礎な医療専門用語や英語表現、コミュニケーションスキルを 取り上げ、身につける。また、患者と接するときに最小限必要な英会話ができるための基礎的能力を養う。						
教科書	Speaking of Nursing(南雲堂) 看護英会話入門第3版(医学書院)			評価 方法	授業態度(参加度)、提出物、 小テスト、定期考査、出席状況		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1・2	Classroom English,Unit1Asking Basic Questions,Lesson1-A Greetings, Introductions	授業で使う英語表現、必要事項を質問する	○英語に関心を持ち、予習復習を積極的に取り組む。また、意欲的に会話やグループ活動に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ○相手の話す内容を理解し、適切な応答ができ、表現している。(思考・判断・表現) ○既知の情報を元にスムーズに会話を進めるための技能を身につけている。(技能) ○ナースが患者と接するときに最小限必要な英会話(医療用語・表現)ができるために必要な知識を身につける。(知識・理解)
3・4	Unit1Asking Basic Questions, Lesson1-B Greetings, Introductions	患者への必要事項を質問し、対応する	
5・6	Unit2 A Patient's First Visit Lesson2-A Nursing Procedures	受付時の会話、初診患者の情報を質問する	
7・8	Unit2 A Patient's First Visit Lesson2-B Nursing Procedures	受付時の会話、初診患者の情報を質問する	
9・10	Unit3 Where's Internal Medicine? Lesson3-A Symptoms and Conditions	各科の案内、病院内の案内	
11・12	Unit3 Where's Internal Medicine? Lesson3-B Symptoms and Conditions	各科の案内、病院内の案内	
13・14	Review Units1-3, Lesson4-A At Reception	Unit1-3のまとめ	
15・16	Unit4 Admission to the Hospital Lesson4-B Billing	患者への案内、入院時のオリエンテーション	
17・18	Unit4 Admission to the Hospital Lesson5-A Colds & Flu	患者への案内、入院時のオリエンテーション	
19・20	Unit5 Giving Information Lesson5-B Stomachache	入院患者への説明、薬などの可算名詞・不可算名詞	
21・22	Unit5 Giving Information Lesson6-A Internal Medicine	入院患者への説明、薬などの可算名詞・不可算名詞	
23・24	Unit6 Symptoms Lesson6-B Orthopedics	各症状の表現法	
25・26	Unit6 Symptoms Lesson7-A Surgery	各症状の表現法	
27・28	Review Units4-6 Lesson7-B Surgery	Unit4-6のまとめ	
29・30	Review Units1-6 Lesson8-A Pediatrics	Unit1-6のまとめ	
31・32	Unit7 Injuries and Emergencies Lesson8-B Internal Medicine	身体の各部位、怪我の深刻度	
33・34	Unit7 Injuries and Emergencies Lesson9-A Ophthalmology	身体の各部位、怪我の深刻度	
35・36	Unit8 How Are You Feeling? Lesson9-B ENT	入院患者との会話、各内臓器官の名前	
37・38	Unit8 How Are You Feeling? Lesson10-A Dermatology	入院患者との会話、各内臓器官の名前	
39・40	Unit9 A Patient's Medical History Lesson10-B Urology	病気や怪我の症状、病歴	
41・42	Unit9 A Patient's Medical History Lesson11-A Obstetrics	病気や怪我の症状、病歴	
43・44	Review Units7-9 Lesson11-B Radiology Dept.	Unit7-9のまとめ	
45・46	Unit10 Medicine Lesson12-A Dentistry	薬の処方、薬や医療器具の名前	
47・48	Unit10 Medicine Lesson12-B Dentistry	薬の処方、薬や医療器具の名前	
49・50	Unit11 I'm Going to Give You an IV Lesson13-A Emergency Room	手術前後の会話	
51・52	Unit11 I'm Going to Give You an IV Lesson13-B Ambulance Call	手術前後の会話	
53・54	Unit12 Congratulations! You're Having a Baby Girl,Lesson14-A Lung Cancer Screening	産前産後の会話、看護師の一日の予定	
55・56	Unit12 Congratulations! You're Having a Baby Girl,Lesson14-B Breast Cancer Screening	産前産後の会話、看護師の一日の予定	
57・58	Review Units10-12, Lesson 15-A Cardiac Exam	Unit10-12のまとめ	
59・60	Review 7-12, Lesson15-B Colonoscopy	Unit7-12のまとめ	

教育 内容	人間と生活・ 社会の理解	科目	生涯スポーツ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	各種の運動・スポーツの合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。						
教科書	現代高等保健体育（改訂版）大修館			評価 方法	実技テスト・課題（知識・技能） 授業での取り組み（思考・判断・表現） 授業態度・出席状況（主体的態度）		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	体育理論（豊かなスポーツライフの設計）	生涯にわたって計画的に運動に親しむために必要な資質や能力について学ぶ	自己の課題を発見し、解決に向けて思考・判断し表現している。学習に主体的に取り組もうとしている
3 4	体づくり運動	生涯にわたって運動に親しむために、必要な体づくり運動を実践する。	自己の身体の状態について理解しようとしている。仲間と主体的に取り組もうとしている。
5 6	集団行動	集団行動の行い方を身につける。	集団行動の行い方を理解し、効率的に思考・判断し、表現している。主体的に取り組もうとしている。
7 8	スポーツテスト	基本的な運動能力について自己の数値を計測し、認識する。	自己の運動能力について、数値を認識し、課題を発見し、解決に向けて思考・判断、表現している。
9 ～ 18	種目選択 1 球技①バレーボール ②バドミントン	自己の能力やチームの課題に応じた練習方法や、ゲームの運営方法を考え実践ができるようにする。	・個人の技能やチーム力アップにつながる練習や戦術を考えたゲームができているか。 ・積極的に参加しているか、ゲームの進行・記録などの運営に協力しているか。
19 ～ 28	種目選択 2 球技①バスケットボール ②卓球	自己の能力やチームの課題に応じた練習方法や、ゲームの運営方法を考え実践ができるようにする。	・個人の技能やチーム力アップにつながる練習や戦術を考えたゲームができているか。 ・積極的に参加しているか、ゲームの進行・記録などの運営に協力しているか。
29 30	実技テスト	選択種目の自己の能力について認識し、課題を発見する。	選択種目の自己の能力について、認識し、課題を発見し、解決に向けて思考・判断、表現している。

教育 内容	人体の構造と機能	科目	解剖生理学Ⅰ	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科	1年
科目の 目標	解剖学や生理学を系統的に学習し、看護者として必要な人体の構造と機能を理解する。人体の仕組みについて、その構造と機能の両面を人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解する。							
教科書	系統看護学講座 解剖生理学			評価 方法	授業への取り組み・態度、ノート、小テスト、定期試験			

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	各部の名称，細胞の構造	人体の区分と各部位の名称，細胞の構造と機能，細胞の複製の基本となる遺伝について学ぶ。	人体の区分と各部位の名称，細胞の構造と機能，細胞の複製の基本となる遺伝について理解している。
3 4	DNA，組織	細胞や組織，組織の組み合わせでできる器官について理解する。	細胞や組織，組織の組み合わせでできる器官について理解している。
5 6 7 8	骨格系	骨，関節，筋肉の基本的な構造について学ぶ。	骨，関節，筋肉の基本的な構造について理解している。
9 10 11 12	消化器系	消化管の運動と消化液の分泌調節，消化・吸収の調節機構について学ぶ。 食物を消化し，栄養素を吸収するためのしくみについて理解する。	消化管の運動と消化液の分泌調節，消化・吸収の調節機構について理解している。 食物を消化し，栄養素を吸収するためのしくみについて理解している。
13 14	循環器系	全身に血液を巡らせるポンプである心臓の構造について学ぶ。	全身に血液を巡らせるポンプである心臓の構造について理解している。
15 16	泌尿器系	尿生成・排出に必要な組織の構造について学ぶ。	尿生成・排出に必要な組織の構造について理解している。
17 18	リンパ系	全身のリンパ管とリンパ系の器官について学ぶ。	全身のリンパ管とリンパ系の器官について理解している。
19 20	呼吸器系	呼吸器系の各器官の構造について理解する。	呼吸器系の各器官の構造について理解している。
21 22	脳・脊髄	脳の各部位，脊髄の構造・機能について学ぶ。	脳の各部位，脊髄の構造・機能について理解している。
23 24	脊髄神経と脳神経，自律神経	全身に分布する神経系の構造について学ぶ。	全身に分布する神経系の構造について理解している。
25 26	交感神経・副交感神経	全身に分布する神経系の構造について学ぶ。	全身に分布する神経系の構造について理解している。
27 28	生殖器，感覚器	男性生殖器と女性生殖器の構造，性周期に伴う女性生殖器の変化について理解する。	男性生殖器と女性生殖器の構造，性周期に伴う女性生殖器の変化について理解している。
29 30	系統解剖学見学実習	人体の構造を解剖見学で確認させる。	人体の構造を理解している。

教育 内容	人体の構造と機能	科目	解剖生理学Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	解剖学や生理学を系統的に学習し、看護者として必要な人体の構造と機能を理解する。人体の仕組みについて、その構造と機能の両面を人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解する。						
教科書	系統看護学講座 解剖生理学			評価 方法	授業への取り組み・態度、ノート、小テスト、定期試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	人体と細胞	人体の最小単位である細胞の構造と機能について学ぶ。	人体の最小単位である細胞の構造と機能について学ぶ。
3 4	消化と吸収	食物を消化し、栄養素を吸収するためのしくみについて理解させる。	食物を消化し、栄養素を吸収するためのしくみについて理解する。
5 6	呼吸のしくみ	呼吸運動のあらましとその調節について、肺と血液中のガス交換と運搬について学ぶ。	呼吸運動のあらましとその調節について、肺と血液中のガス交換と運搬について理解する。
7 8	血液と体液	体液・血液の組成および機能と、酸塩基平衡の調節機構を理解させる。	体液・血液の組成および機能と、酸塩基平衡の調節機構を理解する。
9 10	血液循環	心臓から拍出された血液がどのようにして体内を循環して心臓に還流するのかを学ぶ。	心臓から拍出された血液がどのようにして体内を循環して心臓に還流するのかを理解する。
11 12	腎臓と尿の生成	尿生成の過程とその調節について学ぶ。	尿生成の過程とその調節について理解する。
13 14	内分泌系	ホルモン分泌を調節するしくみについて理解させる。	ホルモン分泌を調節するしくみについて理解する。
15 16	骨格と筋	骨格筋の収縮メカニズムについて学ぶ。	骨格筋の収縮メカニズムについて理解する。
17 18	神経系 中枢神経	神経細胞における情報伝達のしくみについて学ぶ。	神経細胞における情報伝達のしくみについて理解する。
19 20	神経系 末梢神経	神経細胞における情報伝達のしくみについて学ぶ。	神経細胞における情報伝達のしくみについて理解する。
21 22	感覚器系	感覚受容器の機能について学ぶ。	感覚受容器の機能について理解する。
23 24	免疫系	非特異的・特異的な異物に対する生体防御機構について学ぶ。	非特異的・特異的な異物に対する生体防御機構について理解する。
25 26	生殖器 発生と分化	男性生殖器・女性生殖器の調節機構について学ぶ。	男性生殖器・女性生殖器の調節機構について理解する。
27 28	体表 体温について	体温の調節機構、からだのリズム性調節と睡眠について学ぶ。	体温の調節機構、からだのリズム性調節と睡眠について理解する。
29 30	試験	既習の内容について試験を行うことで、知識の定着をはかる。	

教育 内容	人体の構造と機能	科目	生化学	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	細胞内の化学的現象とその統合機能を理解でき、生命科学の基本に興味をもてるようにする。 栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。 遺伝のしくみについて理解する。						
教科書	系統看護学講座 人体の構造と機能② 生化学（医学書院） 系統看護学講座 人体の構造と機能③ 栄養学（医学書院）				評価 方法	授業への取り組み 提出物・定期考査	

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第 1 章 生化学を学ぶための基礎知識	人体を構成する細胞について理解する。	・細胞の構造と機能について理解している。
3 4 5 6	第 3 章 糖質の構造と機能 第 5 章 脂質の構造と機能 第 7 章 タンパク質の構造と機能	有機化合物を中心として人の身体を構成している物質について、その構造や性質について学ぶ。	・糖質、脂質、タンパク質それぞれの構造や性質を理解している。
7 8 9 10	第 4 章 糖質代謝 第 6 章 脂質代謝 第 8 章 タンパク質代謝	人の生体内におけるさまざまな代謝とその役割について学ぶ。	・糖質、脂質、タンパク質それぞれの代謝について学び、その役割を理解している。
11 12	第 2 章 代謝の基礎と酵素・補酵素		・酵素の働きを理解している。
13 14	第 2 章 栄養素の種類とはたらき ビタミン	ビタミンのはたらきを理解する。	・ビタミンの種類とはたらきを理解している。
15 16	中間考査		
17 18	第 2 章 栄養素の種類とはたらき ミネラル	ミネラルのはたらきを理解する。	・ミネラルの種類とはたらきを理解している。
19 20	第 3 章 食物の消化と栄養素の吸収・代謝	食物がどのように消化・吸収・代謝されるのか理解させる。	・消化、吸収、代謝の違いを説明できる。 ・栄養素が身体の中でどのようなはたらきをしているか説明できる。
21 22	第 8 章 ライフステージと栄養	各期の栄養の特徴を理解させる。	・ライフステージの各期において、栄養がどのような意味をなしているのか分かる。 ・他の科目と関連させて学んでいる。
23 24	第10章 遺伝子と核酸	遺伝子の情報がどのように働くかについて学び、遺伝子の変化が身体にどのような変化を及ぼすのかを理解させる。	・DNA、RNA、染色体などの構造が理解できている。
25 26	第11章 遺伝子の複製・修復・組み換え		・DNAの複製や修復について分かる。
27 28	第12章 転写 第13章 翻訳と翻訳後修飾		・転写とは何か説明できる。 ・mRNAについて理解している。
29 30	期末考査		

教育 内容	疾病の成り立ちと回復の 促進	科目	微生物学	単位数 (時間)	1単位 (30)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	病原微生物（ウイルス、細菌、真菌、原虫）の性状・特徴と、それらが引き起こす種々の感染症に関する基本的な知識を学習する。						
教科書	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(4) 微生物学 医学書院			評価 方法	授業への取り組み、提出物（ノート・レポート）テスト ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	微生物の性質と微生物学について	微生物の性質について学ぶ。	微生物の性質が理解できる。
3 4	細菌の性質、構造、増殖、遺伝について	細菌の形態と構造について、機能と関連づけて学ぶ。	細菌の形態と構造について理解できる。
5 6	ウイルスの性質・増殖、真菌の性質、原虫について	ウイルスの性質・増殖、真菌の性質、原虫の性質について学ぶ。	ウイルス、真菌、原虫の性質について理解できる。
7 8	感染と発症、感染経路について	微生物感染の一般的機構と感染の成立や発症、感染経路について学ぶ。	感染経路方法を知り、感染の成立について理解できる。
9 10	病原性と宿主の抵抗力について	看護に必要な微生物の人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について学ぶ。	看護に必要な微生物の人体におよぼす影響と病原微生物の感染予防の必要性がわかる。
11 12	免疫応答、液性免疫、細胞性免疫について	生体の感染防御機構について学ぶ。	生体の感染防御機構について理解できる。
13 14	消毒と滅菌について	消毒と滅菌の意義と定義を理解し、消毒法と滅菌法について学ぶ。	消毒と滅菌の意義と定義を理解し、消毒法と滅菌法がわかる。
15 16	化学療法について	化学療法の意味と役割を知り、病原体別に用いられているおもな化学療法薬について学ぶ。	化学療法の意味と役割を知り、病原体別に用いられているおもな化学療法薬について理解できる。
17 18	感染症対策、感染症法、予防接種について	看護・医療従事者として感染症の治療や院内感染対策について学ぶ。	看護・医療従事者として感染症の治療や院内感染対策について説明することができる。
19 20	臨床検査の種類、評価について	感染症を診断するための方法について学ぶ。	感染症を診断する方法がわかる。
21 22	化学検査、免疫血清学的検査について	感染症を診断するための化学検査・免疫血清学的検査について学ぶ。	感染症を診断するための化学検査・免疫血清学的検査がわかる。
23 24	腫瘍マーカー、輸血に関する検査、内分泌検査について	腫瘍マーカー、輸血に関する検査、内分泌検査について学ぶ。	腫瘍マーカー、輸血に関する検査、内分泌検査がわかる。
25 26	病原細菌と細菌感染症について	病原細菌の特徴とその感染経路について学ぶ。	病原細菌の特徴とその感染経路について理解できる。
27 28	病原真菌と真菌感染症について	真菌感染症とその感染経路について学ぶ。	真菌感染症とその感染経路について理解できる。
29 30	病原ウイルスとウイルス感染症について	ウイルス感染症とその感染経路について学ぶ。	ウイルス感染症とその感染経路について理解できる。

教育 内容	疾病の成り立ちと 回復の促進	科目	病理学	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理について学び、病理的な観点から患者の状態を理解する。						
教科書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復① 病理学（医学書院）				評価 方法	授業への取り組み 提出物・定期考査	

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝子異常、老化と死、病理診断の実際	病理学とはどのような学問なのか、人間の生と死を考えながらとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・病理学で学ぶことを知る。 ・先天異常や遺伝性疾患の診断と治療について理解する。 ・加齢に伴う変化を理解する。
3 4	感染症	感染が成立する機序や主な感染症とをの治療や予防について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染の成立について説明できる。 ・感染経路の違いを理解している。 ・主な感染症と治療・予防について理解している。
5 6	細胞・組織の障害と修復代謝障害	障害と修復および代謝障害について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・萎縮、肥大、過形成、化生、壊死などの状態を理解している。 ・さまざまな代謝障害について理解している。
7 8	炎症と免疫 移植と再生医療	炎症と免疫、また移植と再生医療について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・炎症の機序と免疫機能について理解できる。 ・アレルギー反応について理解している。
9 10	循環障害、生活習慣と環境因子による生体の障害	主に生活習慣病について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・浮腫、うっ血、充血、止血などの機序を理解している。 ・生活習慣等が身体に及ぼす影響について理解している。
11 12	腫瘍	腫瘍の発生、治療について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の定義と分類を理解している。 ・転移や播種について理解している。
13 14	消化器1	消化器疾患の病態について理解する。	消化器疾患の病態について理解している。
15 16	消化器2		
17 18	循環器	循環器疾患の病態について理解する。	循環器疾患の病態について理解している。
19 20	内分泌、骨・関節	内分泌疾患および筋骨格系の疾患を理解する。	内分泌疾患および筋骨格系の疾患の病態について理解している。
21 22	血液・造血器	血液・造血器疾患の病態を理解する。	血液・造血器疾患の病態を理解できる。
23 24	脳・神経・筋肉	脳神経系疾患の病態について理解する。	脳神経系疾患の病態について理解している。
25 26	生殖器、乳腺、耳・眼・皮膚	生殖器や感覚器系の疾患について理解する。	生殖器や感覚器系疾患の病態について理解している。
27 28	呼吸器、腎・泌尿器	呼吸器および腎・泌尿器の疾患を理解する。	呼吸器および腎・泌尿器疾患の病態について理解している。
29 30	試験	知識の定着をはかる。	

教育 内容	疾病の成り立ち と回復の促進	科目	薬理学	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	総論（高校看護科で履修済み）の知識をもとに、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(3) 薬理学、医学書院			評価 方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度） 出席状況、ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	薬理学総論、基礎知識	薬理学を学ぶにあたっての基礎知識を学ぶ	薬物療法における看護師の役割が言える。誤薬の防止のための5Rについて説明できる。
3 4	薬理学の基礎知識（薬力学）	薬が作用する仕組みを知る	薬物の受容体とその分類やイオンチャネルについて理解できる。
5 6	薬理学の基礎知識（薬物動態学）	薬物の投与経路や薬物の吸収について知る	薬物の投与経路やどのように代謝・排泄されるか理解できる。
7 8	薬物使用の有益制と危険性 薬と法律	薬物の副作用や臓器に及ぼす影響について知る。医薬品に関する法律について知る。	薬物の用量や副作用薬物耐性について理解する。劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・覚醒剤などの取り扱いを言うことができる
9 10	抗感染症薬	感染症に使用する薬剤を知る	感染症とそれに対応する抗感染症薬や、投与時の看護について理解できる。
11 12	抗がん剤	抗がん剤の特性や作用、有害作用について知る	抗がん剤の種類や作用機序について理解し、投与時の看護が言える。
13 14	免疫治療薬	免疫のしくみや免疫治療薬の投与時の看護について知る	液性免疫と細胞性免疫の違いについて説明でき、投与時の看護が言える。
15 16	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬について知り、投与時の看護のポイントを知る	抗アレルギー薬・抗炎症薬について理解し、投与時の看護が理解できる。
17 18	末梢神経系の薬物、中枢神経系の薬物	末梢神経や中枢神経に作用する薬について知り、その看護について知る。	末梢神経や中枢神経に作用する薬について知り、その看護について理解する。
19 20	循環器系に作用する薬物	循環器系に作用する薬について知る。	循環器系疾患に使用される薬剤について知り、投与時の看護が理解できる
21 22	呼吸器・消化器・生殖器の薬物	呼吸器・消化器・生殖器の治療薬について知る	呼吸器・消化器・生殖器の治療薬について知り、投与時の看護が理解できる
23 24	物質代謝に作用する薬物	物質代謝に作用する薬物について知る	経口血糖降下剤やインスリン製剤の種類や作用、注意点について理解できる。
25 26	皮膚科用薬、眼科用薬	それぞれの疾患や場面によって使用する薬剤を知る。	それぞれの疾患や場面によって使用する薬剤を理解する。
27 28	緊急時の薬物、漢方薬、消毒薬	それぞれの疾患や場面によって使用する薬剤を知る。	それぞれの緊急時の場面によって使用される薬剤について理解する。消毒薬の種類や適応について理解する
29 30	輸液製剤、輸血剤について	輸液、輸血のそれぞれの種類や使用目的を知る。	輸液、輸血のそれぞれの種類や使用目的を知り、輸血に伴う有害反応について理解する

教育 内容	疾病の成り立ちと 回復の促進	科目	臨床栄養学	単位数 (時間)	1 単位 (15時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	傷病者にとっての食事の目的を知り、あらゆる状況におかれた患者に対して最適な食事とは何かを理解する。病態栄養などの“根拠”を学ぶことで、患者の抱えるそれぞれの疾患に応じた「食事療法」への理解を深める。食事療法における看護師の役割を理解する。						
教科書	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法（医学書院）			評価 方法	授業への取り組み・提出物 定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第1章 栄養食事療法とは 第2章 栄養食事療法の基礎	食事療法の概要と基礎について理解する。	・食事療法について関心を持っている。 ・NSTの役割を理解し、チームの中での看護師の役割を説明できる。 ・栄養アセスメントの基本を理解している。
3 4	第3章 症状・疾患別の栄養食事療法 A 呼吸器疾患 B 循環器疾患	呼吸器疾患、循環器疾患の病態理解を基に、食事療法について理解する。	・各疾患の食事療法について理解し、根拠を述べるができる。 ・看護師としての役割が言える。
5 6	C 消化器疾患 D 腎・泌尿器疾患	消化器疾患、腎・泌尿器疾患の病態理解を基に、食事療法について理解する。	・各疾患の食事療法について理解し、根拠を述べることができる。 ・看護師としての役割が言える。
7 8	E 栄養代謝性疾患 F 血液疾患 G がん患者	栄養代謝性疾患や血液疾患、がん患者の病態理解を基に、食事療法について理解する。	・各疾患の食事療法について理解し、根拠を述べることができる。 ・看護師としての役割が言える。
9 10	H 食物アレルギー I 熱傷・褥瘡 J 精神・神経疾患	アレルギー疾患や熱傷・褥瘡、精神・神経疾患の病態理解を基に、食事療法について理解する。	・各疾患の食事療法について理解し、根拠を述べることができる。 ・看護師としての役割が言える。
11 12	第4章 術前・術後の栄養管理	手術が身体にどのような影響を与えるのか考え、術前・術後の食事療法について理解する。	・手術が身体に与える影響について理解している。 ・術前、術後の栄養の重要性について理解できる。
13 14	第5章 ライフステージに応じた栄養食事療法 第6章 医療保健制度・介護保健制度と食事	ライフステージに応じた栄養療法について理解する。 食事に関連する保健制度	・各ライフステージの特徴を理解し、食事の意義を理解している。 ・食事に関する保健制度が分かる。
15	考査		

教育 内容	疾病の成り立ちと 回復の促進	科目	疾病・治療論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (25時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	臨床検査の全体像と意義を総合的に把握し、検査を適切に行うために必要な知識や、結果を考察する能力を修得する。 感染症の代表的な疾患・症状および、その特徴・診断・治療・看護について学ぶ。また、看護が感染症対策に果たす役割を学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床検査（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学⑩ アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）					評価 方法	授業への取り組み 提出物・定期考査

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【臨床検査】 第1章 臨床検査とその役割 第2章 臨床検査の流れと看護師の役割	臨床検査の種類を知り、 看護師としての役割を学 ぶ。	・臨床検査の種類が分かる。 ・臨床検査に関心を持ち、看護師としての役割を考え ている。
3 4	第3章 一般検査 第4章 血液学的検査	一般検査や血液学的検査 の種類や方法、看護につ いて学ぶ。	・尿検査、便検査の方法や看護を理解している。 ・血球検査や出血、凝固検査の種類を理解し、結果を 評価できる。
5 6	第5章 化学検査	化学検査の種類や方法、 看護について学ぶ。	・生化学検査の種類と基準を理解している。 ・血液ガス分析について理解している。
7 8	第6章 免疫・血清学的検査	免疫・血清学的検査の種 類や方法について学ぶ。	・炎症マーカーについて理解している。 ・腫瘍マーカーについて理解している。
9 10	第7章 内分泌学的検査	内分泌学的検査の種類や 方法について学ぶ。	・内分泌学的検査の種類や方法について理解してい る。
11 12	第8章 微生物学的検査 第9章 病理学的検査	微生物学的検査や病理学 的検査について学ぶ。	・微生物学的検査や病理学的検査の種類や方法につい て理解している。
13 14	第10章 生体検査	生体検査についてその方 法や結果について学ぶ。	・生体検査の種類や方法、評価について理解してい る。
15	考査	知識の定着を図る。	
16 17	【感染症】 第2章 感染症とは	微生物や薬理学で得た知 識を基に、看護に必要な 感染症の基礎知識につい て理解する。 感染症の主な症状・疾患 について学び、その治 療・看護の根拠について 理解する。	・感染症に関心を持って取り組んでいる。 ・感染が成立する条件を理解している。 ・感染経路が言える。
18 19	第5章 疾患の理解①		・さまざまな感染性疾患の特徴が言える。 ・スタンダードプリコーションについて理解し、根拠 に基づいて実践できる。
20 21	第5章 疾患の理解②		
22 23	第5章 疾患の理解③		
24 25	第6章 患者の看護		・積極的に取り組んでいる。

教育 内容	疾病の成り立ち と回復の促進	科目	疾病・治療論Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	血液，呼吸器，消化器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し，治療の概要を理解する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(4)血液・造血器 医学書院			評価 方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度） 出席状況，ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【内科血液】 血液の成分・造血，検査	血液に関する基礎知識を理解する	血液細胞の成分と機能について知っている
3 4	身体所見，病態生理	血液疾患を持つ患者の病態生理や特徴を知る	血液疾患を持つ患者の特徴的な症状や病態生理，検査について知っている
5 6	赤血球系の異常	貧血の種類や病態・診断・治療を知る	貧血の種類や病態・診断・治療について理解する。
7 8	造血器腫瘍	造血器腫瘍の分類と治療法や合併症について知る。造血幹細胞移植について知る。	白血病，骨髄異形成症候群の分類・病態・診断・治療について理解する。
9 10	出血性疾患	出血性疾患の診断・治療について知る。	凝固異常による出血性疾患の診断・治療について理解する。
11 12	【内科呼吸器】 肺感染症	一般的な呼吸器感染症について，基礎的な知識を学習する	インフルエンザや肺炎の病態・診断・治療について理解する
13 14	肺感染症	結核の病態・診断・検査・治療について学び、発生時の対応を知る	結核の病態・診断・検査・治療について理解し、発生時の対応をが言える。
15 16	間質性肺炎，呼吸不全	間質性肺疾患や呼吸不全の基本的な病態・診断・治療を学習する。	間質性肺疾患や呼吸不全の基本的な病態・診断・治療を理解する。
17 18	肺がん	肺がんおもな組織型の特徴や症状・検査・治療について学習する。	肺がんおもな組織型4種類とそれぞれの特徴や症状・検査・治療について理解する。
19 20	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患の原因，症状，診断，治療について学習する。	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患の原因，症状，診断，治療について理解する。
21 22	【内科消化器】 消化器の解剖生理	消化器の解剖生理について理解する	消化器器官の種類・位置・構造や機能について理解し消化器が果たす役割を理解する。
23 24	消化器疾患の症状と病態生理， 検査と治療	疾患の症状・病態生理について理解し，各種検査の意義・目的・実施方法・適応疾患について学習する	疾患の症状・病態生理について理解し，各種検査の意義・目的・実施方法・適応疾患について理解する。
25 26	疾患の理解（食道・胃・十二指腸）	それぞれの疾患の分類・原因・症状・診断・治療について学ぶ。	食道・胃・十二指腸の疾患の特徴や・病型分類や症状治療について理解する。
27 28	疾患の理解（腸・腹膜）	それぞれの疾患の分類・原因・症状・診断・治療について学ぶ。	腸・腹膜の疾患の特徴や・病型分類や症状治療について理解する。
29 30	疾患の理解（肝臓・胆嚢・膵臓）	それぞれの疾患の分類・原因・症状・診断・治療について学ぶ。	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の特徴や・病型分類や症状・治療について理解する。

教育 内容	疾病の成り立ちと 回復の促進	科目	疾病・治療論Ⅲ	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	循環器，内分泌系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し，治療の概要を理解する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学(3)循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(6)内分泌・代謝 医学書院			評価 方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度） 出席状況，ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【内科循環器】 循環器の構造と機能	心臓の構造と機能を理解し，血液循環とその調節のしくみと働きを学習する	心臓の構造と機能を理解し，血液循環とその調節のしくみと働きを理解する
3 4	症状とその病態生理	循環器疾患の特徴的な症状を知り，その病態生理について知る	循環器疾患の特徴的な症状を知り，その病態生理について理解する
5 6	検査と治療	循環器疾患の診断に用いられる主な検査法や内科的・外科的治療特について学習する。	循環器疾患の診断に用いられる主な検査法や内科的・外科的治療特について理解する。
7 8	疾患の理解	虚血心疾患の概念・症状・分類・検査・合併症・治療などを学ぶ	虚血心疾患の概念・症状・分類・検査・合併症・治療などを理解する。
9 10	疾患の理解	心不全の病態・概念・症状・所見・治療について学習する	心不全の病態・概念・症状・所見・治療について理解する
11 12	疾患の理解	血圧異常の分類・診断・治療や、不整脈の種類・特徴・治療などについて学ぶ。	血圧異常の分類・診断・治療や、不整脈の種類・特徴・治療などについて理解する。
13 14	疾患の理解	弁膜症・心膜炎・心筋疾患の概要を学び、主な先天性心疾患について知る	弁膜症・心膜炎・心筋疾患の概要を学び、主な先天性心疾患について理解する。
15 16	【内科内分泌】 内分泌・代謝器官の構造と機能	内分泌・代謝器官の構造と機能について学ぶ。	内分泌系は11の系統に分類し，それぞれについて学ぶ。代謝系は代表的疾患理解に必要な代謝の概要を学ぶ。
17 18	症状とその病態生理・検査	内分泌・代謝疾患で見られる代表的な症状と，それが起こるしくみや、特徴的な検査について学ぶ。	内分泌・代謝疾患で見られる代表的な症状と，それが起こるしくみや、特徴的な検査について理解する。
19 20	疾患の理解	内分泌系の各臓器系統ごとの疾患について知り，各疾患における症状・病態生理を学ぶ。	内分泌系の各臓器系統ごとの疾患について知り，各疾患における症状・病態生理を理解する。
21 22	疾患の理解	代謝疾患では特に糖尿病の治療方法・合併症・患者指導などについて学ぶ	代謝疾患では特に糖尿病の治療方法・合併症・患者指導などについて理解する。
23 24	免疫のしくみとアレルギー疾患	免疫反応やアレルギー反応の4つの型について学ぶ。アレルギー疾患の特徴について学ぶ	免疫反応やアレルギー反応の4つの型について理解する。アレルギー疾患の特徴について理解する。
25 26	膠原病の症状と検査	自己免疫疾患の病態について学び，膠原病の特徴的な症状や機序，検査について知る。	自己免疫疾患の病態について学び，膠原病の特徴的な症状や機序，検査について理解する。
27 28	疾患の理解	膠原病の各疾患の病態・治療方法について学ぶ	膠原病の代表的疾患の関節リウマチや全身性エリテマトーデス・全身性強皮症の病態・治療方法について学ぶ
29 30	試験	これまでの講義内容について試験を行うことで，知識の定着を図る。	試験で合格点を取る

教育 内容	基礎看護学	科目	看護学概論	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	「看護とはなにか」という問いについて、看護の理念、看護実践の原理と倫理、看護の対象となる人間とその健康、看護の提供者である看護職者の教育・制度・組織、看護に対する社会的要請、などの多角的な観点から検討し、看護学全般に対する学問的基盤の土台を形成する。						
教科書	系統看護学講座 基礎看護学(1)看護学概論 看護理論―看護理論21の理解と実践への応用 系統看護学講座 基礎看護学(4)臨床看護総論			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物（レポート・課題） ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	看護とは	看護の歴史や看護の定義を知り、看護の本質について考える	看護の歴史や看護の定義を知り、看護の本質について理解する。
3 4	健康とは	健康とは何か、どのように捉えるべきか学ぶ	健康とは何か、どのように捉えるべきか理解する
5 6	健康とは	健康・障害とは何か、どのように捉えるべきか学ぶ	健康・障害の捉え方の変化を知り、現在捉え方を理解する。
7 8	看護の対象の理解	看護の対象者を身体的・精神的社会的に捉えられるよう学ぶ	看護の対象者を身体的・精神的社会的に捉えられるよう学ぶ
9 10	看護の対象の理解	生理学・心理学の様々な理論を知り、看護の対象の理解につなげる。	生理学・心理学の様々な理論を知り、看護の対象の理解につなげる。
11 12	看護倫理	看護倫理を学ぶ目的や必要性を知る。	看護倫理を学ぶ目的や必要性を学ぶ。
13 14	看護倫理	事例を用いて倫理問題やジレンマの解決にどのように取り組むかを学ぶ	事例を用いて倫理問題やジレンマの解決にどのように取り組むか理解する。
15 16	看護理論	看護倫理のレポートの仕方をナイチンゲールを用いて説明し、レポートのまとめ方を理解する	看護倫理のレポートの仕方をナイチンゲールを用いて説明し、レポートのまとめ方を理解する
17 18	化学療法について	化学療法の特徴や原理、有害反応について学ぶ。	化学療法の特徴や原理、有害反応について理解する。
19 20	化学療法の看護	化学療法の目的や、抗がん剤からの暴露防止について学ぶ。	化学療法の目的や、抗がん剤からの暴露防止について理解する。
21 22	化学療法の看護	化学療法を受ける患者・家族への看護援助を学ぶ	化学療法を受ける患者・家族への看護援助を理解する。
23 24	放射線治療について	放射線療法の特徴や種類、目的や方法について学ぶ	放射線療法の特徴や種類、目的や方法について理解する。
25 26	放射線治療の看護	放射線療法を受ける患者・家族への看護援助を学ぶ	放射線療法を受ける患者・家族への看護援助について理解する。
27 28	終末期について	終末期患者の身体的・心理的社会的ニーズについて知る	終末期患者の身体的・心理的社会的ニーズについて理解する
29 30	終末期について	終末期の患者・家族への看護援助を学ぶ	終末期の患者・家族への看護援助を理解する。

教育 内容	基礎看護学	科目	看護過程	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	対象の健康問題を判断し、解決するための理論的知識を用いて問題解決できる思考を専門的技術として活用する方法を習得する。						
教科書	系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物 テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	1. 看護過程とは (1)意義と対象 (2) 基本構造	看護過程の意義と基礎的理論が理解でき、看護過程の構成要素を理解する。	看護科での学習を基に、看護過程の意義や役割、基本構造を理解している。
3 4	2. 看護過程の展開 (1) 情報収集、スクリーニング (2) アセスメント	人間の総合的理解と健康への援助を行うためのアセスメントについて理解する。	人間の総合的理解と、健康に関する援助を行うための、クリティカルシンキングを身に付けている。
5 6	(3) 看護診断 (NANDA-Iを用いた看護診断)	問題解決過程の看護診断の基本について理解する。	看護科での学習を基に、看護過程の考え方や、診断のあげ方の基本について理解している。
7 8	・ NANDA-Iの分類法と意義	NANDA-Iの分類法や意義等の基本について具体的に理解できる。	NANDA-I分類法について理解を深め、意義を理解している。
9 10	・ NANDA-Iの主な看護診断概念が理解できる。	NANDA-Iの診断概念や主な看護診断について、理解する。	NANDA-Iの診断概念や主な看護診断について理解し、対象に応じて適切な看護診断を考える力を身に付けている。
11 12	・ NANDA-Iの主な看護診断概念が事例を用いて理解できる。	NANDA-Iの診断概念や主な看護診断について、事例を用いて診断を表現できるようになる。	NANDA-Iの診断概念や主な看護診断について、事例を用いて適切に表現できる力を身に付けている。
13 14	・ 事例を用いた看護診断演習	NANDA-Iを用いて、適切な看護診断をあげることができる。	事例の看護診断についてNANDA-Iを用いて適切に考える力を身に付けている。
15 16	・ 関連図・看護目標	関連図が書け、看護目標を適切にあげることができる。	看護科での学習を基に、関連図や看護目標について理解し、関連する知識や技術を身に付けている。
17 18	(4) 看護計画	看護診断に対して適切な看護計画を立案することができる。	看護科での学習を基に、看護計画の基本について理解し、個別的な看護計画を立案する力を身に付けている。
19 20	(5) 実施・評価	看護診断に対する実施・評価について理解する。	看護科での学習を元に、看護計画に対する実施・評価の内容や方法について理解し、正しく記述する技術や思考を身に付けている。
21 22	・ 看護記録 (SOAP)	実施した看護実践を記録する方法について理解し、実践できる。	SOAPについての理解を深め、事例に対して正しく記述する技術や思考を身に付けている。
23 24	・ 実習記録の書き方 (看護過程)	臨地実習で使用する、看護過程記録の書き方について理解する。	臨地実習で使用する看護過程の記録の方法を理解している。
25 26	・ 臨地実習で使用する記録用紙の書き方	臨地実習で使用する記録用紙について説明する。(サマリー・経過記録・外科記録用紙等)	臨地実習で使用する記録用紙の書き方について理解を深めることができる力を身に付けている。
27 28	・ 事例を用いた看護過程の展開演習	事例を用いて、看護過程の一連の流れについて理解し、表現することができる。	事例に対する看護過程の一連の流れについて理解し、思考判断をしながら、意欲的に取り組み、正しく表現することができる。
29 30	・ 事例を用いた、SOAPの記述演習	事例を用いて、SOAPについて理解し、表現することができる。	事例に対する、SOAPの記述方法について理解し、思考判断をしながら、意欲的に取り組み正しく表現することができる。

教育 内容	基礎看護学	科目	フィジカルアセスメント	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術及び治療場面において必要とされる看護技術について学び、適切な看護ケアについて考えることができる。						
教科書	フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)			評価 方法	授業への取り組み 提出物 (ノート・レポート) 試験 実技テスト 小テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2 3 4	フィジカルアセスメントの意義や基本的概念を学び、臨床における役割を理解する。	フィジカルアセスメントの目的や意義を理解し、臨床での活用を考える視点を養う。	フィジカルアセスメントの基本概念や各手技の特徴を説明でき、活用の意義を論理的に考察することができる。
5 6 7 8	呼吸器系のアセスメント ・呼吸器の解剖や機能を学び、フィジカルアセスメントを通じてその働きを評価する基礎を身につけ、適切なケアにつなげる視点を養う。	呼吸器の構造と機能を理解し、フィジカルアセスメントによって得られた情報をもとにケアを考えられるようになる。	呼吸器の解剖・機能を理解し、フィジカルアセスメントにより呼吸状態を判断し、適切なケアを考えることができる。
9 10 11 12	循環器系のアセスメント ・循環器系の解剖や機能を学び、フィジカルアセスメントを通じて心臓や血管の状態を把握し、適切なケアにつなげる視点を養う。	循環器系の構造と機能を理解し、フィジカルアセスメントによって心臓や血管の状態を把握し、適切なケアを考えられるようになる。	循環器系の解剖・機能を理解し、フィジカルアセスメントにより心臓や血管の状態を把握し、適切なケアを考えることができる。
13 14	腹部のアセスメント ・腹部の解剖や消化器系の機能を学び、フィジカルアセスメントを通じて適切に観察し、ケアにつなげる視点を養う。	腹部の構造と消化器系の構造を理解し、フィジカルアセスメントによってその状態を捉え、適切なケアを考えられるようになる。	腹部の解剖・消化器系の機能を理解し、フィジカルアセスメントにより、腹部の状態を把握し、適切なケアを考えられる。
15 16	筋・骨格筋系のアセスメント ・筋・骨格系の構造や機能を学び、フィジカルアセスメントを通じて姿勢や動作の異常を把握し、ADLへの影響を考える視点を養う。	筋・骨格系の構造と機能を理解し、関節可動域測定や徒手筋力検査を通じて状態を捉え、ADLへの影響を考えられるようになる。	筋・骨格系の解剖・機能を理解し、関節可動域測定や徒手筋力検査を用いて状態を判断し、適切なケアを考えられる。
17 18 19 20	脳・神経系のアセスメント ・脳・神経系の構造や機能を学び、フィジカルアセスメントを通じて患者の状態を多角的に把握するための基本的な方法を学ぶ。	脳・神経系の構造と機能を理解し、基本的な観察方法や評価方法を学ぶことで、多角的に患者の状態を把握する力を養う。	脳・神経系の解剖・機能を理解し、フィジカルアセスメントによって患者の状態を正確に観察し、必要な情報を収集できる。
21 22	看護科1年生にフィジカルアセスメントの技術を教えることで、自身の理解を深め、学習意欲や指導力、コミュニケーション力を向上させる。	フィジカルアセスメントの技術を先輩にわかりやすく伝え、自身の理解を再確認し、指導力やコミュニケーション力を高める。	先輩として後輩に技術を明確に説明し、教えることで理解が深まり、指導力やコミュニケーション能力の向上を実感できる。
23 24 25 26 27 28 29 30	実技テスト、実技演習 ・腹部音 ・心音 ・呼吸音シュミレーション ・運動器 (MMT、パレ徴候、落下試験)	シュミレーションモデル等を使用し、呼吸音、心音、腸音、筋力テストの実技演習を行い、技術を習得する。	シュミレーションモデル等を使用し呼吸音、心音、腸音の聴取、MMTを実施する。技術の正確さを評価し、必要に応じて指導者からのフィードバックを基に、改善点を反映させて再実施し、技術の向上を図る。

教育 内容	基礎看護学	科目	基礎看護学演習	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	看護の専門職人として、看護の問題を科学的に解決できるよう研究的態度について学ぶ。						
教科書	医学書院 系統看護学講座別巻 看護研究			評価 方法	出席状況 授業（講義・グループ） 授業への取り組み 演習 その他（グループ研究への取り組み、研究発表）		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	看護における研究の意義	看護における研究の意義、特徴、研究方法について理解させる。	看護における研究の意義、特徴、研究方法について理解している。
3 4	看護研究の目的、分野	研究における倫理的配慮とその重要性、倫理的配慮について理解させる。	研究における倫理的配慮とその重要性、倫理的配慮について理解している。
5 6	研究の種類と各論文の構成	看護の視点で疑問を持ち、文献検索・文献検討を行う必要性について理解させる。	看護の視点で疑問を持ち、文献検索・文献検討を行う必要性について理解している。
7 8	グループ研究の実施	グループ毎に看護の視点で興味・関心のあるテーマを決め、文献を活用しながら、研究を進め、 研究的態度について学ぶ。	既習内容や看護の視点からテーマを考え、グループで研究をすすめている。
9 10	研究発表会の参加(専攻科2年生)	ケーススタディのすすめ方、研究成果の発表方法について学ぶ。	ケーススタディのすすめ方、研究成果の発表方法について学ぶ。
11 12	研究発表会の参加 (県下看護学生研究発表会)	外部の研究発表会に参加することで、他者に分かりやすい発表方法や資料の作成の実際について学ぶ。	外部の研究発表会に参加することで、他者に分かりやすい発表方法や資料の作成の実際について学ばせる。
13 14	グループ研究発表	グループとしての研究成果をわかりやすく発表することができる。質疑応答など研究者としての対応を学ぶ。	グループとしての研究成果をわかりやすく発表することができる。質疑応答など研究者としての対応ができる。
15 16	グループ研究発表	グループとしての研究成果をわかりやすく発表することができる。質疑応答など研究者としての対応を学ぶ。	グループとしての研究成果をわかりやすく発表することができる。質疑応答など研究者としての対応ができる。
17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	看護過程ゼミ 老年領域 母性領域 慢性期 終末期 急性期 回復期	データベース等の記録の記入方法や看護過程の展開方法について学ぶ。	個人やグループでの学習を通して、データベース等の記録用紙の記入方法や看護過程の展開方法について理解している。

教育 内容	地域・在宅看護論	科目	地域・在宅看護論総論	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	在宅看護を取り巻く社会情勢および、在宅看護に関わる法令・制度、地域・在宅における看護実践の基盤となる知識を修得する。						
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論医 医学書院			評価 方法	出席状況・授業への取り組み・ 提出物・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2 3 4	在宅看護の目的と特徴	在宅看護の現状から、在宅看護がめざすものや目的を知り、在宅看護の提供される場について学習する。	在宅看護の現状から、在宅看護がめざすものや目的を知り、在宅看護の提供される場とその広がりについて学び、在宅看護を実践する看護師の役割や倫理について理解している。
5 6		在宅看護を実践する看護師の役割や在宅看護における倫理について学ぶ。	
7 8		在宅看護の提供の対象者と年齢との関係、対象者に多い疾患について学ぶ。	
9 10		在宅看護の対象者に特徴的な療養状態を学ぶ。また、対象者の住まい方と健康な生活との関連を学ぶ。	
11 12 13 14	在宅看護の対象者	対象者としての家族について理解し、家族支援について学ぶ。また、家族システムとしてとらえる考え方を学ぶ。	在宅看護の対象者の疾患の特徴を理解し、対象者の住まい方と健康な生活との関連を理解している。
15 16		在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を知り、在宅看護における看護師の基本的活動とその視点を学ぶ。	
17 18		入退院など療養の場の移行時において看護師が行う支援について学ぶ。	
19 20		在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について理解している。	
21 22	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	在宅看護において重要な介護保険制度について学ぶ。	在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について理解している。
23 24		法・制度の理解をふまえ、訪問看護制度とサービス提供の具体的な内容や在宅看護におけるケアマネジメントを学ぶ。	
25 26		在宅看護過程の展開のポイントを理解し、その展開方法について学ぶ。	
27 28		在宅看護における医療事故防止や感染防止について学ぶ。	
29 30	在宅看護の展開	災害時の在宅看護について、訪問看護師の役割や対応について学ぶ。	在宅看護展開に必要な知識・技術を身に付け、社会資源の活用方法が分かり、日常生活支援できるように実践的能力を身に付けている。
31 32		在宅看護の対象者の権利保障について、その考え方としくみを法的なルールや事例により学ぶ。	
33 34		地域における医療の現状・課題について知り、他職種との連携について学ぶ。	
35 36		地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解している。	

教育 内容	成人看護学	科目	成人健康生活支援概論	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	大人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護のアプローチの基本的考え方や方法について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学(1)成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座別巻 がん看護学 医学書院			評価 方法	授業への取り組み、提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト		
時間	学習内容		ねらい		評価基準		
1 2	成人の生活と健康 ①成人と生活 ②生活と健康		成人期の身体的、精神的、社会的課題についてまとめ、両親や身近にいる成人の生活史や体験を考察しながら、成人について理解する。		成人期にある身近な人から成人期の身体的、精神的、社会的課題についてまとめ、成人の生活史や体験を考察しながら、成人について理解することができる。		
3 4	成人の生活と健康 ①成人と生活 ②生活と健康		事例の成人の対象について、グループワークさせ、家族も含めたアセスメントをさせ、対象の身体的・精神的・社会的役割について考える。		成人期にある対象の身体的・精神的・社会的役割について家族を含めて、考えることができる。		
5 6	成人の生活と健康 ①成人と生活 ②生活と健康		事例の成人の対象について、対象が現在の生活を続けていると発症するリスクのある疾患を各事例で1つ選び、その疾患の病態と治療について各グループで学習する。		成人期で起こりやすい疾患とその病態について調べ、まとめることができる。		
7 8	成人の生活と健康 ①成人と生活 ②生活と健康		2、3 限目で行った課題についてプレゼンテーションをさせ、各グループ同士で共有したり、質疑応答したりして、成人期の対象の理解を深める。		2、3 限目に行ったグループワークの発表や他グループの発表を聞きながら、成人期の対象の理解を深めることができる。		
9 10	成人への看護アプローチの基本		健康行動を生み、はぐくむ看護について理解し、患者の意思決定を支える看護について学ぶ。		成人期の対象が健康行動をするための看護について理解できる。		
11 12	成人への看護アプローチの基本		事例を通して、患者の意思決定を支える看護について学ぶとともに、家族支援についても考える。		意思決定支援と家族支援について考えることができる。		
13 14	ヘルスプロモーションと看護		大人のヘルスプロモーションについて学び、地域社会や職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護について学ぶ。		ヘルスプロモーションを促進する看護について考えることができる。		
15 16	健康をおびやかす要因と看護		事例を用いてストレスコーピング理論を用いて対象のストレスコーピングの支援について考える。		ストレスコーピング理論を用いてストレスコーピングの支援について考える。		
17 18	健康の急激な破綻から回復を促す看護		急激な健康破綻に陥った人の状況と体験している苦痛について理解し、看護としてどのようなことが必要かを学ぶ。		急激な健康破綻に陥った人の状況と体験している苦痛について知り、看護としてどのようなことが必要かを考えることができる。		
19 20	慢性病との共存を支える看護		慢性患者の病みの奇跡を理解し、セルフマネジメントの必要性について理解する。		慢性患者の病みの奇跡を理解し、セルフマネジメントの必要性がわかる。		
21 22	障害のある人の生活とリハビリテーション		障害とは何かについて学び、障害がある人の認識過程を知る。障害がある人々を支援する看護について学ぶ。		障害がある人の認識過程を知り、障害がある人々を支援する看護について考えることができる。		
23 24	人生の最後の時を支える看護		エンド・オブ・ライフ・ケアや全人的苦痛について学ぶ。		エンド・オブ・ライフ・ケアや全人的苦痛について考えることができる。		
25 26	人生の最後の時を支える看護		人生最後の時を支える看護について、看護の目的、看護師の態度、看護師の役割と機能の視点から学ぶ。		人生最後の時を支える看護について、看護の目的、看護師の態度、看護師の役割と機能の視点から理解することができる。		
27 28	治療過程にある患者への看護技術		治療を受けた患者が早期回復するために必要な看護について学び、患者の日常生活を再構築するための看護技術について学ぶ。		健康状態に応じた看護について理解することができる。		
29 30	療養の場を移行する人々への看護技術		療養の場を移行支援が必要とされる社会的背景について学ぶ。病棟・外来看護師が行う療養の場の移行支援についての方法を学ぶ。		療養の場を移行支援が必要とされる社会的背景がわかる。病棟・外来看護師が行う療養の場の移行支援についての方法を理解することができる。		

教育 内容	成人看護学	科目	急性期看護論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	周手術期にある患者の看護について、解剖生理、病態生理と関連し理解する。 重篤で急激に変化する患者の状態を、科学的な視点でアセスメントし、生命維持に必要な看護について理解する。						
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(7)脳・神経 医学書院			評価 方法	授業への取り組み、提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
1 2	【外科総論】 外科看護について		外科的治療を支える分野や外科的治療の実際を知り、外科看護の役割について学ぶ。		外科看の役割について理解できる。		
3 4	麻酔の分類と特徴、麻酔前準備、 酸素療法について		外科的治療のもたらす効果と障害についても学ぶ。		外科的治療の効果と障害について理解できる。		
5 6	麻酔看護について		外科麻酔科領域の病態生理について臨床看護と結びつけて理解できる。		麻酔看護について必要な知識を理解できる。		
7 8	体液循環の管理、輸液療法、 損傷に伴う援助技術		手術および麻酔侵襲に対する生体反応を理解し、周手術期の看護を学ぶ。		手術・麻酔侵襲について理解できる。		
9 10	救急医療、移植医療について		救急処置法の基本を学び、救急医療や看護の実際を知る。		救急処置法の基本がわかる。		
11 12	【外科消化器】 食道がんについて		食道がんの病態・治療について学ぶ。		食道がんの病態・治療がわかる。		
13 14	肝臓・胆嚢・膵臓疾患について		肝臓・胆嚢・膵臓疾患についての病態を学ぶ。		肝臓・胆嚢・膵臓疾患についての病態がわかる。		
15 16	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の治療・手術について		肝臓・胆嚢・膵臓疾患の治療について学ぶ。		肝臓・胆嚢・膵臓疾患についての治療がわかる。		
17 18	胃がんについて		胃がんの病態・治療について学ぶ。		胃がんの病態・治療がわかる。		
19 20	大腸がんについて		大腸がんの病態・治療について学ぶ。		大腸がんの病態・治療がわかる。		
21 22	【外科呼吸乳腺】 肺および気管支の疾患 胸部外傷患者の看護		肺・胸部の疾患について学ぶ。 胸部外傷につて学ぶ。		肺・胸部の疾患について理解できる。 胸部外傷による症状等が理解できる。		
23 24	肺切除術を受ける患者の看護		肺切除術を受ける患者の治療と看護について学ぶ。		肺切除術を受ける患者の治療を知り、必要な看護がわかる。		
25 26	乳腺の疾患・乳房の手術を受ける患者の看護		乳がんの病態・治療について学ぶ。		乳がんの病態・治療がわかる。		
27 28	【外科循環器】 心臓血管手術の歴史、弁膜症手術について		心臓血管外科手術の概要について学ぶ。		心臓血管外科手術についての概要がわかる。		
29 30	虚血性心疾患について 大動脈解離、大動脈瘤について		虚血性心疾患の病態・治療について学ぶ。 大動脈解離・大動脈瘤についての病態・治療を学ぶ。		虚血性心疾患の病態・治療がわかる。 大動脈解離・大動脈瘤についての病態・治療がわかる。		

教育 内容	成人看護学	科目	急性期看護論Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	急性期患者の疾患や病態、手術侵襲とその生体反応の特徴について学ぶ。侵襲からの保護と侵襲に対する生体反応を理解し援助・回復を促進するための基本的な知識と技術を学ぶ。各疾患の周手術期の経過と看護展開について理解する。						
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(3)循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器 医学書院			評価 方法	授業への取り組み、提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト		
時間	学習内容	ねらい			評価規準		
1 2	手術侵襲について	侵襲に対する生体反応の特徴を理解し、侵襲からの早期回復のための看護について考える。			侵襲に対する生体反応が理解でき、看護について考えることができる。		
3 4	術前看護について	手術を受ける患者の術前の身体的アセスメント・心理社会的アセスメントについて学ぶ。			手術を受ける患者に必要なアセスメントがわかる。		
5 6	術前看護について	手術前日、手術当日の看護について理解する。			手術前日、当日に必要な看護について理解できる。		
7 8	術中護について	手術期における手術室看護師の役割を理解する。術中の患者の安全・安楽を図る看護について学ぶ。			手術室看護師の役割がわかる。手術中の患者の安全・安楽を図るための看護について理解できる。		
9 10	内視鏡下手術を受ける患者の看護	内視鏡下手術を受ける患者の周術期看護を学ぶ。			内視鏡下手術を受ける患者の周術期看護について理解する。		
11 12	術後看護について	術後の患者の異常を早期発見するための看護について学ぶ。			術後の異常の早期発見をするための看護がわかる。		
13 14	術後看護について	術後の疼痛コントロール方法を学ぶ。ドレーン留置の目的と留置中の看護について学ぶ。			術後の疼痛コントロール方法がわかる。ドレーン挿入の目的と挿入中の看護がわかる。		
15 16	術後看護について	起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応について学ぶ。			術後合併症の予防と発症時の対処がわかる。		
17 18	胃がん患者の看護について	胃がん患者の看護について、事例を用いて具体的な援助について考えることができる。			胃がん患者について必要な看護を考えることができる。		
19 20	大腸がん患者の看護について	大腸がん患者の看護について、事例を用いて具体的な援助について学ぶ。			大腸がん患者について必要な看護を考えることができる。		
21 22	大腸がん患者の看護について	人工肛門造設術を受ける患者の看護について、具体的な援助方法を学ぶ。			人工肛門造設術、人工肛門のケアについて必要な看護を考えることができる。		
23 24	くも膜下出血患者の看護について	開頭術を受ける患者の看護について学ぶ。			くも膜下出血患者、開頭術を受ける患者に必要な看護を考えることができる。		
25 26	乳腺の疾患・乳房の手術を受ける患者の看護	乳がん患者の看護について、事例を用いて具体的な援助について考えることができる。			乳がん患者に必要な看護について考えることができる。		
27 28	肺がん患者の看護	肺がん患者の看護について、事例を用いて具体的な援助について学ぶ。			肺がん患者について必要な看護を考えることができる。		
29 30	肺がん患者の看護	胸腔ドレーンのしくみと胸腔ドレーン挿入中の看護について学ぶ。			胸腔ドレーンのしくみがわかる。胸腔ドレーン挿入中の看護がわかる。		

教育 内容	成人看護学	科目	慢性疾患療養生活支援論	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	慢性的，長期展開をする疾患・病態に応じた対象への，QOLの充実のための援助を理解する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(3)循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(4)血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(6)内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(8)腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症 医学書院			評価 方法	授業への取り組み（関心・意欲・態度） 出席状況，ペーパーテスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	呼吸器疾患の看護	COPDの疾患と看護について学ぶ	COPD患者のリスク因子や患者教育，在宅酸素療法の導入，管理について理解する。
3 4	呼吸器疾患の看護	結核の疫学や疾患や看護について学ぶ	結核の我が国の疫学や法律，感染経路，特徴的な検査や治療法を理解し，必要な看護援助が分かる。
5 6	循環器疾患の看護	心臓の解剖生理を理解し，高血圧症について学ぶ。	心臓の解剖生理を理解し，高血圧によって影響を受ける臓器や合併症，患者指導について理解する
7 8	循環器疾患の看護	虚血性心疾患の種類や症状，検査，治療について学ぶ	狭心症と心筋梗塞の症状や検査，治療の違いについて理解する。
9 10	循環器疾患の看護	虚血性心疾患患者の看護について学ぶ。	虚血性心疾患患者の合併症予防塗装機発見・対処について理解し患者の安静度に応じた日常生活援助について理解する。
11 12	消化器疾患の看護	肝臓の構造や機能について理解し，肝硬変の疾患について学ぶ	肝硬変患者の疫学や重症度スコア，検査所見やについて理解できる。
13 14	消化器疾患の看護	肝硬変の症状や治療・看護について学ぶ。	肝臓の機能と肝硬変の症状を結びつけて理解し合併症予防や患者の状態に合わせた日常生活指導について理解する。
15 16	血液疾患の看護	血液成分と機能について理解し，白血病の種類や検査・治療についての学ぶ	血液の成分やそれぞれの血球の働きを知り，白血病の種類や検査・急性と慢性の違いについて理解する。
17 18	血液疾患の看護	化学療法や造血幹細胞移植を受ける患者の看護について学ぶ	化学療法や造血幹細胞移植を受ける患者の看護について理解する。
19 20	腎疾患患者の看護	慢性腎不全の患者の経過と看護について必要な知識について学ぶ	疾患の特徴や特徴を踏まえた症状のコントロールが大切であることを理解し，基礎的な知識を身に付けている
21 22	腎疾患患者の看護	透析療法を受ける患者の看護について学ぶ	治療選択期・導入期・維持期などの時期の違いや，血液透析・腹膜透析などの方法の違いによる看護について基礎的知識を身に付けている
23 24	腎疾患患者の看護		
25 26	糖尿病患者の看護	糖尿病患者の具体的な看護援助について学ぶ	慢性疾患の特徴について理解し，看護の対象者が，疾病と生活の自己コントロールができるよう，援助の実践ができる技術を身に付けている
27 28	糖尿病患者の看護		
29 30	膠原病患者の看護	膠原病の特徴や障がいによってもたらされる身体的・心理・社会的な問題について学ぶ	膠原病患者・家族の様々な問題への援助についての看護の役割を理解している

教育 内容	老年看護学	科目	老年健康生活支援論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する。						
教科書	系統看護学講座 成人看護学(10)運動器 系統看護学講座 成人看護学(7) 脳・神経疾患患者の看護 医学書院			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験 小テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【整形外科疾患の看護】 1. 老年期に多い疾患（1）整形総論	運動器疾患を持つ患者の特徴と看護の役割について理解する。	老年期に多い、運動器疾患を持つ患者について理解を深め、看護の役割について関心を持ち、知識を身に付けている。
3 4	（2）脊椎の疾患（脊椎靱帯硬化症、椎間板ヘルニア等）	老年期に多い脊椎疾患の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い脊椎疾患の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
5 6	（3）神経の疾患（脊髄損傷、末梢神経損傷等）	老年期に多い神経疾患の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い神経疾患の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
7 8	（4）関節の疾患（変形性関節症等）	老年期に多い関節疾患の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い関節疾患の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
9 10	（5）関節の疾患（関節リウマチ等）	老年期に多い関節疾患の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い関節疾患の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
11 12	（6）骨折	老年期に多い骨折の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い骨折の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
13 14	（7）骨腫瘍等	老年期に多い骨折の病態生理、症状、治療法、予後などについて学ぶ。	老年期に多い骨折の病態生理、症状、治療法、予後などの理解を深め、老年者の援助のニーズと援助技術を理解している。
15 16	【脳神経疾患の看護】 2. 脳神経疾患の看護 （1）脳・神経系の構造と機能	脳・神経系の構造と機能を理解し、障害部位と発症症状との関連について理解を深める。	脳・神経系の構造と機能を理解し、障害部位と発症症状との関連について理解を深めるとともに、援助方法を実践する力を身に付けている。
17 18	（2）老年期に多い脳神経疾患の症状と病態生理	脳・神経系の症状と病態生理を理解し、より適切な看護の実践につなげる。	脳・神経系の症状と病態生理を理解し、障害部位と発症症状との関連について理解を深め、援助方法を実践する力を身に付けている。
19 20	（3）老年期に多い脳神経疾患の検査・診断	脳・神経系の検査と診断を理解し、より適切な看護の実践につなげる。	脳・神経系の検査と診断を理解し、特徴や個性性を考慮した、援助方法を実践する力を身に付けている。
21 22	（4）老年期に多い脳神経疾患の治療・処置について	脳・神経系の治療と処置を理解し、より適切な看護の実践につなげる。	脳・神経系の治療と処置を理解し、特徴や個性性を考慮した、援助方法を実践する力を身に付けている。
23 24	（5）老年期に多い脳神経疾患の理解（脳動脈瘤）	老年期に多い脳動脈瘤の健康障害の特徴と援助方法が理解できる。	老年期に多い脳動脈瘤の健康障害の特徴と援助方法を理解し実践する知識と技術を身に付けている。
25 26	（6）老年期に多い脳神経疾患の理解（脳出血）	老年期に多い脳出血の健康障害の特徴と援助方法が理解できる。	老年期に多い脳出血の健康障害の特徴と援助方法を理解し実践する知識と技術を身に付けている。
27 28	（7）老年期に多い脳神経疾患の理解（脳梗塞等）	老年期に多い脳梗塞等の健康障害の特徴と援助方法が理解できる。	老年期に多い脳梗塞等の健康障害の特徴と援助方法を理解し実践する知識と技術を身に付けている。
29 30	考查		

教育 内容	老年看護学	科目	老年健康生活支援論Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	・ 老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護の役割を考える。 ・ 老年期にある人の日常生活上の健康問題を総合的に理解し、その看護について考える。 ・ 加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する。						
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(10)運動器 医学書院			評価 方法	出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験 小テスト		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	1. 老年期の生活 (1) 老年期の人の理解（生活史、身体的・精神的・社会的特徴・性、超高齢社会の現況）	老年者の加齢に伴う身体的・精神的変化を成熟という観点から理解する。	老年者の、特徴を理解し、生活史や、調高齢社会の現況を理解する力を身に付けている。援助方法を身に付けている。
3 4	(2) 日常生活上の健康問題の特徴と援助（コミュニケーション・安全・運動・休息と睡眠・清潔等）	加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者への日常生活の援助について理解する。	老年者の日常生活の自立生活拡大のための援助やコミュニケーションの方法について理解し、実践するための援助方法を身に付けている。
5 6	(2) 日常生活上の健康問題の特徴と援助（栄養と代謝・排泄・移動等）	加齢による機能低下や疾病・障害のある高齢者への日常生活の援助について理解する。	老年者の日常生活の自立生活拡大のための援助方法について理解し、実践するための援助方法を身に付けている。
7 8	(3) 老人看護の目標と役割、健康を守るための援助、フレイル・寝たきりの予防	老年者へのフレイルや寝たきり予防の援助方法について理解する。	老年者のフレイルや寝たきりを予防するための援助方法について理解し、実践するための援助方法を身に付けている。
9 10	(4) 高齢者と死、家族への援助、エンドオブライフケア	老年者の死とその家族への援助について理解し、人生の最期への援助について理解する。	老年者の死とその家族への援助について理解し、人生の最期への援助方法について理解し、実践するための援助方法を身に付けている。
11 12	2. 老年期による問題と看護 (1) 治療を受ける患者の看護	老年者へのフレイルや寝たきり予防の援助方法について理解する。	老年者へのフレイルや寝たきり予防について理解し、援助方法や、実践するための援助方法を身に付けている。
13 14	(2) 認知症の看護	老年者に多い認知症の特徴について理解し、その援助方法について理解する。	老年者に多い認知症の特徴について理解し、援助方法や、実践するための知識や技術を身に付けている。
15 16	(3) 骨粗鬆症・廃用症候群等の看護 考 査	老年者に多い骨粗鬆症・廃用症候群等への援助方法について理解する。	老年者に多い骨粗鬆症・廃用症候群等の特徴について理解し、援助方法や、実践するための知識や技術を身に付けている。
17 18	3. 老年期に多い運動器疾患の看護 (1) 主な検査と看護	運動器疾患に対する各種の検査項目とその適応疾患、看護師の役割について学ぶ。	運動器疾患に対する各種検査項目とその適応疾患、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護を考える力を身に付けている。
19 20	(2) 診断・治療と看護	運動器疾患の治療法としての義肢・装具の適応疾患や、看護師の役割について学ぶ。	運動器疾患に対する各種の診断・治療とその適応疾患、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護について考える力を身に付けている。
21 22	(3) 周術期の看護と合併症予防の看護	運動器疾患の周術期の看護と合併症予防の看護の知識・技術について理解し実施できる。	周術期の看護や合併症予防に関する知識技術や、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護を行う力を身に付けている。
23 24	(4) 変形性膝関節症患者の看護	変形性膝関節症の看護の知識・技術について理解し実施できる。	変形性膝関節症の看護に関する知識技術や、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護を身に付ける力を身に付けている。
25 26	(5) 骨折患者のの看護	骨折の看護の知識・技術について理解し実施できる。	骨折の看護に関する知識技術や、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護について考える力を身に付けている。
27 28	(6) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護	腰椎椎間板ヘルニアの看護の知識・技術について理解し実施できる。	変形性膝関節症の看護に関する知識技術や、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護について考える力を身に付けている。
29 30	(7) 脊髄損傷患者のの看護 考 査	変形性膝関節症の看護の知識・技術について理解し実施できる。	腰椎椎間板ヘルニアの看護に関する知識技術や、看護師の役割について関心を持ち、状況に応じた看護について考える力を身に付けている。

教育 内容	小児看護学	科目	小児健康生活支援論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	小児看護の対象を理解し、小児を取り巻く環境の意義、小児観の歴史的変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解する。小児の成長発達を理解し、評価・アセスメントできる。病気や障害をもつ子どもの特徴を踏まえ、具体的な援助方法を理解する。						
教科書	系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）			評価 方法	授業への取り組み・提出物・プレゼンテーション グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第2章 子どもの成長・発達	既習の知識を確認する。	・看護科3年で学んだ小児看護の内容が身についている。
3 4	第3章 新生児・乳児	既習の知識を整理し、各期の成長・発達の特徴を理解する。	・小児の成長、発達に関心を持ち、積極的に取り組んでいる。 ・小児各期の成長、発達の特徴を理解し、各期の子どものイメージできる。 ・他者に分かりやすくまとめる（表現する）事ができる。
5 6	第4章 幼児・学童	各期の子どものイメージできるよう、成長・発達の特徴をまとめ、活用できる形にする。	
7 8	第5章 思春期・青年期の子ども	国家試験の出題基準と照らし合わせ、成人と比較して違いを理解させる。	
9 10	小児各期の成長・発達		
11 12	第1章 小児看護の特徴と理念 第6章 家族の特徴とアセスメント	少子化の社会的背景やその影響を理解させ、子どもを総合的にアセスメントできる能力を養う。	・小児看護における倫理や看護師としての役割がわかる。 ・小児と家族の諸統計を理解できる。
13 14	第7章子どもと家族を取り巻く社会	子どもの権利や健康を守る政策を知り、看護の役割を考える。また母性看護との連携を図り、社会福祉、関係法規につなげる。	・子どもの健康と権利を守るための政策を把握し、自分に何ができるかを考えている。
15 16	演習：身体計測・予防接種・バイタルサイン測定	モデル人形で、身体計測・予防接種の援助・バイタルサイン測定を実施する。	・安全、安楽、正確に、身体計測、予防接種の援助、バイタルサイン測定ができる。 ・更衣などの日常生活援助ができる。
17 18	第4章 子どものアセスメント	子どもの状態を正確に把握するための知識と技術を養う。	・アセスメントに必要な知識を習得している。 ・測定したデータを評価できる。
19 20	第1章 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	病気や障害をもつ子どもと家族の特徴を理解させる。	・病気や障害が子どもと家族にどのような影響を与えるのかを理解している。
21 22	第2章 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	入院や外来、在宅における子どもの看護の特徴を理解させる。	・入院が子どもに与える影響について理解している。 ・環境の変化による影響や家族の負担を考えることができる。
23 24	第3章 子どもにおける疾病の経過と看護	急性期、慢性期、周手術期、終末期にある子どもと家族の特徴を理解させ、看護師としての役割や発達段階に応じた具体的支援を考えさせる。	・急性期、慢性期、周手術期、終末期それぞれの特徴を理解できる。 ・看護師としての役割を考えている。
25 26			・事例の子どもと漢族の状態について、関心を持って理解しようとしている。 ・事例の患児に対し、具体的な支援を考えることができる。
27 28	第6章 検査・治療を受ける子どもの看護	さまざまな検査や治療を受ける子どもの特徴を理解し、発達段階に応じた支援を考えさせる。	・基本的な検査の援助についての知識を習得している。 ・さまざまな検査の特徴を理解し、発達段階に応じた援助方法が分かる。
29 30			

教育 内容	小児看護学	科目	小児健康生活支援論Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	症状の出現する原因や身体面・精神面への影響を理解することで、さまざまな症状を示す子どもの状態をアセスメントする能力を養う。また、症状を示す子どもに対する、発達段階に応じた具体的援助方法を理解し、看護師としての役割を考える。						
教科書	系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学② 小児看護学各論 (医学書院)			評価 方法	授業への取り組み・提出物・グループワーク プレゼンテーション・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	第5章 症状を示す子どもの看護 不機嫌 啼泣	症状を示す子どもの特徴を把握し、観察項目を理解する。	・子どもにとっての不機嫌や啼泣の意味を知る。 ・自覚症状等の成人との違いを理解している。
3 4	痛み	痛みがある子どもの特徴や援助方法について学ぶ。	・発達段階に応じた痛みの表現方法を理解している。 ・痛みに対する具体的援助が言える。
5 6 7 8 9 10	発熱 脱水 (第6章 感染症と看護) (第8章 循環器疾患と看護 川崎病の子どもの看護)	発熱を示す子どもの特徴を把握し、随伴症状を含めた観察項目について学ぶ。 子どもの状態をアセスメントし、具体的な援助方法を学ぶ。 川崎病について理解する。	・発熱時の、随伴症状を含めた観察項目が分かる。 ・発熱を示す子どもの状態をアセスメントすることができる。 ・脱水時の看護を理解する。 ・発熱の原因となる疾患が分かる。 ・川崎病の症状や治療について理解し、看護を述べることができる。
11 12 13 14 15 16	呼吸器症状(呼吸困難 チアノーゼ) (第7章 呼吸器疾患と看護)	呼吸困難やチアノーゼなどの呼吸器症状を示す子どもの特徴を把握し、その観察項目を理解する。 子どもの状態をアセスメントし、具体的な援助方法を学ぶ。 気管支喘息について理解する。	・呼吸困難やチアノーゼなどの呼吸器症状が、発達段階によってどのように表現されるか分かる。 ・呼吸器症状の原因となる疾患が分かる。 ・呼吸器症状を示す子どもに対する観察項目を理解し、状態をアセスメントすることができる。 ・気管支喘息の病態や治療について理解し、具体的な看護を考えることができる。
17 18 19 20 21 22 23 24	消化器症状(嘔吐 下痢 便秘) (第9章 消化器疾患と看護)	嘔吐・下痢・便秘・腹痛などの消化器症状を示す子どもの特徴を把握し、その観察項目を理解する。 消化器症状の原因となる代表的な疾患について理解させ、具体的な看護を考える。 外来における看護師の役割を理解させる。	・消化器症状の原因となる代表的な疾患の病態や特徴的な症状、治療が分かる。 ・嘔吐や下痢の観察ポイントを理解し、アセスメントできる。 ・患者の状態を判断するために必要な観察項目を理解している。 ・発達段階に応じた情報収集ができる。 ・外来における看護師の役割を考えている。
25 26 27 28 29 30	痙攣 意識障害 (第13章 神経疾患と看護 痙攣性疾患)	痙攣を示す子どもの特徴を把握し、その観察項目と発作時の対処方法を理解する。 てんかんについての基礎的な知識を習得する。	・痙攣についてイメージでき、種類を把握している。 ・痙攣発作時の看護を実践できる。 ・てんかんについての基礎的な知識を身に付けている。 ・急変時の対応方法を考える事ができる。

教育 内容	小児看護学	科目	小児健康生活支援論Ⅲ	単位数 (時間)	1単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	小児科の代表的な疾患の病態や症状、治療について、成人と比較しながら理解する。健康障害が小児とその家族の生活に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児とその家族への援助方法を学ぶ。個人の本来の発達を促す看護の役割を考える。						
教科書	系統看護学講座 小児看護学② 小児看護学各論（医学書院） 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）			評価 方法	授業への取り組み・提出物・グループワーク・ プレゼンテーション・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	【小児科疾患】 第1章 先天異常 第2章 新生児疾患	先天異常や新生児疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・先天異常にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な先天異常の病態や症状、治療について理解できる。 ・新生児疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な新生児疾患の病態や症状、治療について理解できる。
3 4	第3章 代謝性疾患 第4章 内分泌疾患	代謝性疾患および内分泌疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・代謝性疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な代謝性疾患の病態や症状、治療について理解できる。 ・内分泌疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な内分泌疾患の病態や症状、治療について理解できる。
5 6	第5章 免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・免疫・アレルギー疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な免疫・アレルギー疾患の病態や症状、治療について理解できる。
7 8	第6章 感染症 第7章 呼吸器疾患	感染症や呼吸器疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・感染症の疾患にはどのようなものがあるか分かる。 ・代表的な感染症の病態や症状、治療について理解できる。 ・呼吸器疾患にはどのようなものがあるか分かる。 ・代表的な呼吸器疾患の病態や症状、治療について理解できる。
9 10	第8章 循環器疾患	循環器疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・先天異常にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な先天異常の病態や症状、治療について理解できる。
11 12	第9章 消化器疾患	消化器疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・消化器疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な消化器疾患の病態や症状、治療について理解できる。
13 14	第10章 血液疾患 第11章 悪性新生物	血液疾患および悪性新生物の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・血液疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な血液疾患の病態や症状、治療について理解できる。 ・悪性新生物にはどのような種類があるか分かる。 ・代表的な悪性新生物の病態や症状、治療について理解できる。
15 16	第12章 腎疾患 第19章 事故・外傷	腎疾患および事故・外傷の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・腎疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な腎疾患の病態や症状、治療について理解できる。 ・子どもの事故や外傷について、発達段階や子どもの特徴を踏まえて理解している。
17 18	第13章 神経疾患 第14章 運動器疾患	神経疾患および運動器疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・神経疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な神経疾患の病態や症状、治療について理解できる。 ・運動器疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な運動器疾患の病態や症状、治療について理解できる。
19 20	第18章 精神疾患	精神疾患の特徴を学び、病態、症状、治療について理解する。	・精神疾患にはどのような疾患があるか分かる。 ・代表的な精神疾患の病態や症状、治療について理解できる。
21 22 23 24	【小児看護】 先天性心疾患と看護	主にファロー四徴症の事例を展開し、疾患の特徴は発達段階に応じた看護を考える。	・ファロー四徴症の病態、症状、検査、治療を理解している。 ・ファロー四徴症の一般的な看護が言える。 ・事例の状態に合わせた看護を考えることができる。
25 26	腎疾患と看護	主にネフローゼ症候群の事例を展開し、病態理解を深めると共に、患児の発達に応じた看護を考える。	・ネフローゼ症候群の病態、症状、検査、治療を理解している。 ・ネフローゼ症候群の一般的な看護が言える。 ・事例の状態に合わせた看護を考えることができる。
27 28	染色体異常と看護	主にダウン症候群の看護を考えることで、疾患や患児とその家族への理解を深める。	・ダウン症候群の病態、症状、検査、治療を理解している。 ・ダウン症候群の一般的な看護が言える。 ・事例の状態に合わせた看護を考えることができる。
29 30	悪性新生物と看護	主に白血病の事例を展開し、治療の影響や家族を含めた看護を考える。	・白血病の病態、症状、検査、治療を理解している。 ・白血病の一般的な看護が言える。 ・事例の状態に合わせた看護を考えることができる。

教育 内容	母性看護学	科目	女性のライフコース支援論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	周産期における母児の健康の保持・増進するための基礎的知識および方法について学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論			評価 方法	授業への取り組み・態度、ノート、 小テスト、定期試験		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	女性生殖器、月経周期について	女性生殖器の解剖・機能、女性の性周期について理解させる。	女性生殖器の解剖・機能、女性の性周期について理解している。
3 4 5 6	月経異常(無月経、月経困難症)	月経異常の症状・診断・治療について理解させる。	月経異常の症状・診断・治療について理解する。
7 8	受胎調節について	妊娠のメカニズムおよび受胎調節について理解させる。	妊娠のメカニズムおよび受胎調節の方法や種類について理解している。
9 10	正常な妊娠について	妊娠のメカニズムおよび正常妊娠について理解させる。	妊娠の成立、正常な妊娠経過について理解している。
11 12	器官形成期、胎児循環、妊娠中の検査について	胎児の成長、妊娠中に行われる検査について理解させる。	妊婦健診で実施される項目、器官形成期の特徴について理解している。
13 14	分娩の3要素	分娩の3要素について理解させる。	分娩の3要素が相互に影響して分娩への影響を理解している。
15 16	正常分娩の経過	正常分娩の経過(母児)について理解させる。	正常分娩の経過から必要となる看護について理解している。
17 18	胎児・新生児の評価	胎児および新生児の評価・アセスメントに必要な検査等について学ぶ。	アセスメントや評価を行う上で必要な検査等について理解している。
19 20	不妊症について	不妊症について基本的な病態について理解させる。	不妊症について基本的な病態について理解している。
21 22	不妊治療、不妊と倫理的課題	不妊治療の実際、不妊症を受けているカップルへの支援について理解させる。	不妊治療の実際、不妊症を受けているカップルへの支援について理解している。
23 24	出生前診断	出生前診断の実際について理解させる。	出生前診断の目的、方法、特徴について理解している。
25 26	人工妊娠中絶	人工妊娠中絶の目的、方法について学ぶ。	人工妊娠中絶について学び、その後の看護の必要性について理解している。
27 28	多胎妊娠、妊娠高血圧症候群	多胎妊娠、妊娠高血圧症候群など頻度の高いハイリスク妊娠について学ぶ。	多胎妊娠、妊娠高血圧症候群など頻度の高いハイリスク妊娠について理解している。
29 30	羊水塞栓症	分娩期に起こる羊水塞栓症の病態について学ぶ。	分娩期に異常をきたしている産婦の看護を理解している。

教育 内容	母性看護学	科目	女性のライフコース支援論Ⅱ	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	女性のライフサイクルを通じて発達する女性のヘルスプロモーション思考を学ぶ。妊娠、分娩、産褥の各期および新生児の生理と、対象への看護を学ぶ。						
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院	評価 方法	授業への取り組み・態度、ノート、小テスト、定期試験				

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	妊娠の成立と母体変化	妊娠の定義とメカニズム、および妊娠時の母体変化について理解させる。	妊娠の定義とメカニズム、および妊娠時の母体変化について理解している。
3 4	胎児の発育	胎児の成長・発達と胎児付属物について理解させる。	胎児の成長・発達と胎児付属物について理解している。
5 6	妊娠期の看護(妊婦健診)	正常な妊娠経過をたどっている妊婦の健康状態を維持・向上する為の看護を理解させる。	正常な妊娠経過をたどっている妊婦の健康状態を維持・向上させるための看護について理解している。
7 8	分娩の3要素、対象理解	分娩期の対象をアセスメントする上で必要な知識を習得させる。	分娩期の対象をアセスメントする上で必要な知識を習得している。
9 10	分娩経過	正常な分娩の流れとメカニズムについて理解させる。	正常な分娩の流れとメカニズムについて理解している。
11 12	分娩期の看護	産婦にとって満足感ある分娩体験となるように、基本的な看護について理解させる。	産婦にとって満足感ある分娩体験となるように、基本的な看護について理解している。
13 14	産褥期の母体変化	妊娠中に生じた母体変化が復古していく生理的過程について理解させる。	妊娠中に生じた母体変化が復古していく生理的過程について理解している。
15 16	産褥期の看護	分娩後の身体的・心理的变化から必要となる看護について理解させる。	分娩後の身体的・心理的变化から必要となる看護について理解している。
17 18	母乳育児、乳房ケアについて	母乳育児の利点や乳房ケアの必要性、手技について理解させる。	母乳育児の利点や乳房ケアの必要性、手技について理解している。
19 20	新生児の生理	新生児が子宮外環境に適応するまでの経過や健康状態のアセスメントについて理解させる。	新生児が子宮外環境に適応するまでの経過や健康状態のアセスメントについて理解している。
21 22	新生児期の看護	出生直後から生後24時間以内の看護および移行期を過ぎてからの看護について理解する。	出生直後から生後24時間以内の看護および移行期を過ぎてからの看護について理解している。
23 24	周産期の看護技術	周産期に特有な看護技術の目的・方法・注意点などの知識・技術について理解させる。	周産期に特有な看護技術の目的・方法・注意点などの知識・技術について理解している。
25 26	周産期の看護過程	周産期各期の健康課題を理解し、正常に経過した周産期の母子の看護過程の展開を学ぶ。	周産期各期の健康課題や、ウェルネス志向型看護診断を理解し、看護過程を展開できる。
27 28	母性看護の基盤となる概念・リプロダクティブヘルスに関する概念	母性と父性の概念、人間の性と生殖やリプロダクティブヘルス/ライツの概念について理解させる。	母性と父性の概念、人間の性と生殖やリプロダクティブヘルス/ライツの概念について理解している。
29 30	リプロダクティブヘルスに関する施策と支援	母子保健のためのさまざまな法律・周産期医療システムについて理解させる。	母子保健のためのさまざまな法律・周産期医療システムについて理解している。

教育 内容	精神看護学	科目	精神健康生活支援論Ⅰ	単位数 (時間)	1 単位 (15時間)	学年	専攻科 1 年
科目の 目標	精神看護学の基本的な考え方や精神の健康、障害の定義とメカニズムを理解し、精神看護の基礎知識を身につけるとともに、精神保健・看護のニーズや世界的な動向を学び、日本の精神科看護の現状について知る。						
教科書	系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院) NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 医学書院			評価 方法	授業への取り組み・課題の提出内容・プレゼンテーション・グループワーク・小テスト・定期考査		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 精神看護学の基本的な考え方理解 精神看護を実施する者の視点態度を学ぶ 	精神看護学の基本的な考え方を理解し、精神障害とはどのような体験か知り、精神看護を実践する者としての視点や態度を学ぶことができる。	精神看護学の基本的な考え方を理解し、精神看護を実践する者としての視点や態度を養うことができるか。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における精神保健・看護ニーズの高まりの背景を知る。 精神科医療の世界的な動向と日本の現状について学ぶ。 	精神保健・看護のニーズや世界的な動向を学び、現代社会における精神看護の重要性を認識することができる。	精神保健・看護のニーズや世界的な動向を学び、現代社会における精神看護の重要性を認識することができるか。
5 6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> 精神の健康の定義を理解し、精神の健康や障害の3側面を理解する。 精神障害についての発生メカニズムや予防と回復のメカニズムを学ぶ 	精神の健康や障害の定義、発生メカニズム、予防と回復のメカニズムを理解し、精神障害に対する包括的な知識を得ることができる。	精神の健康や障害の定義、発生メカニズム、予防と回復のメカニズムを理解し、精神障害に対する包括的な知識を得られることができるか。
9 10	セルフケア理論について学ぶ。	セルフケア理論を学び、精神看護実践に応用することで、患者の自己管理能力を支援する方法を習得することができる。	セルフケア理論について理解し、精神看護の実践に活かせる知識と方法がわかる。
11 12 13 14	事例を展開し、統合失調症の看護について考える。	前回学んだセルフケア理論を元に統合失調症の病態と看護について学び、具体的な看護問題の展開と対応方法を理解する。	統合失調症の病態を理解し、セルフケア理論を用いて事例の看護問題を展開することができる。
15	プロセスレコードの目的、活用方法を理解する。	プロセスレコードの目的と活用方法を理解し、精神科実習での振り返り方法として活用することで、実践力を高めることができる。	プロセスレコードの意義を理解し、自らの振り返りができる方法として活用できる知識を身につけられているか。

教育 内容	臨地実習	科目	成人看護学実習Ⅰ	単位数 (時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1、2年
科目の 目標	1 成人各期の発達段階と特徴を踏まえて、対象が理解できる。 2 急性期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面を把握し、根拠に基づく病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 3 急性期にある対象者に必要な倫理的配慮したうえで、習得した基礎看護技術を基に、個別的看護実践と評価ができる。 4 継続看護の必要性を理解し、保健医療のなかで看護の役割を理解する。 5 急性期にある対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べることができる。						
教科書	各病棟、各科に対応した教科			評価 方法	出席、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
90	1. 周手術期、あるいは慢性疾患の急性増悪期の状況にある対象を1名受け持ち、その対象を通して看護を学ぶ。 2. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価する。 3. 実習中はカンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を理解する。 6. 医療従事者間における協働の重要性を理解する。		1. 急性期にある受け持ち患者を通して、急性期の看護について考えることができる。 2. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実践、評価できる。 3. カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深めることができる。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解することができる。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を理解することができる。 6. 医療従事者間における協働の重要性を理解することができる。		1. 急性期にある受け持ち患者を通して、身体的・精神的・社会的側面に配慮して急性期の看護について考えることができる。 2. 受け持ち患者の看護計画を臨床現場で患者と関わったり、指導者から助言を受けたりして患者の個性を考慮して立案し、実践、評価できる。 3. カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深めることができる。 4. 生活者として急性期の状況にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を理解できる。 5. 苦痛や不安を軽減するための援助、医療器機の使用、集中治療室の環境を実際の臨床現場を見て理解できる。 6. 医療従事者間における協働の重要性を受け持ち患者を支援する多職種連携やカンファレンスなどから理解できる。		

教育 内容	臨地実習	科目	成人看護学実習Ⅱ	単位数 (時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1、2年
科目の 目標	1 成人各期の発達段階と特徴を踏まえて、対象が理解できる。 2 慢性の経過をたどる対象者に対して、身体的・心理的および社会的側面について把握し、根拠に基づく病気の経過に応じた看護計画を立案することができる。 3 慢性の経過をたどる対象者に対して、倫理的配慮をしたうえで習得した基礎看護技術を基に、個別的看護実践と評価ができる。 4 継続看護の必要性を理解し、保健医療のなかで看護の役割を理解する。 5 慢性の経過をたどる対象者に実践した看護援助を振り返り、自己課題を述べることができる。						
教科書	各病棟、各科に対応した教科			評価 方法	出席、実習への取り組み、レポート、記録物、実習評価表		
時間	学習内容		ねらい		評価規準		
90	1.患者の身体的健康障害について学ぶ。 2.疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているか把握する。 3.患者・家族の気持ちや意思を尊重し、援助的関係を築く。 4.患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を行う。 5.患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種の役割を理解する。 6.実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動する。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について理解する。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につける		1.患者の身体的健康障害についてわかる。 2.疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているか把握することができる。 3.患者・家族の気持ちや意思を尊重し、援助的関係を築くことができる。 4.患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を行うことができる。 5.患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種の役割を理解できる。 6.実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動することができる。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について理解できる。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につけることができる。		1. 患者の身体障害について、検査データやカルテなどの情報や患者との関わりから理解できる。 2. 疾病・治療・検査が患者の身体的・精神的・社会的にどのような影響を及ぼしているかを考えることができる。 3. 患者・家族の気持ちや意思を尊重し、個別性に配慮して援助的関係を築いていくことができる。 4. 患者の心身の状況やセルフケア能力に応じた日常生活の支援と自立の援助を考え、実施できる。 5. 患者および家族に必要なサポート・社会資源を知り、対象を支える看護師と多職種の役割を理解できる。 6. 実習メンバーの一員としての自己の役割と他者との関係を考えながら行動できる。 7.慢性期にある患者、リハビリテーションを必要とする患者、がん治療を受ける患者の特徴とその看護について考えることができる。 8.看護職者としてふさわしい実習態度を身につけることができる。		

教育 内容	臨地実習	科目	老年看護学実習	単位数 (時間)	2 単位 (90時間)	学年	専攻科 1・2 年
科目の 目標	1 老年期の特徴と健康障害との関連性について理解する。 2 対象の健康状態により生じる問題を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施し評価できる。 3 人生の終末期における老人の生命と人格を尊重する態度を養う。						
教科書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院			評価 方法	出席状況 実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表（自己・病棟）		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	<p>1 健康レベルに応じた看護実践 (健康な生活の保持増進時、社会復帰期、慢性期、疾病の予防と早期発見、終末期、検査・治療に伴う看護)</p> <p>2 機能障害時の看護実践 (呼吸・循環、栄養代謝、防衛機能、内部環境調節機能、感覚機能、運動機能、言語機能、性・生殖機能)</p> <p>3 周手術期の看護 (手術前、手術当日、手術後、救命救急時、急性期、回復への援助、術後合併症、終末期、検査・治療に伴う看護)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の患者の身体的、心理的、社会的特徴としての予備能力の低下を考慮に入れた援助ができる。 ・老年期の患者の治療処置援助と看護の実際を学ぶ。 ・老年期の患者に頻度高く見られる主要症状を理解し、看護援助ができる。 ・生活リズムをつけ、日常生活動作の維持拡大ができるよう援助する。 ・在宅看護へ向けて背景を考慮した導入計画と家族を含めた退院への援助を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期・高齢社会における加齢、生活、保健に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、高齢化現象、及び、精神的社会的発達から老年期にある患者を看護する実践的な態度を身に付けている。 ・老年期の患者の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、的確に表現している。 ・老年期・高齢社会にある患者の看護に関する基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理する力を身に付けている。 ・ライフサイクルの視点から、高齢化や加齢現象、および精神的社会的状況から老年期における看護援助の基本的知識を身に付け、看護の意義や役割を理解している。

教育 内容	臨地実習	科目	小児看護学実習	単位数 (時間)	2 単位 (90時間)	学年	専攻科 1・2 年
科目の 目標	1 小児の成長・発達，健康障害，家族の状況を理解する。 2 小児を 1 人の個として尊重し，成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。 3 対象の健康状態により生じる問題を，成長・発達を踏まえて把握し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価できる。 4 対象を取り巻く医療，保健，福祉の連携の中で，看護の役割について理解する。						
教科書	系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院）			評価 方法	出席状況・実習への取り組み・態度・提出物・実習記録・評価表		

..

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	【小児看護の特徴】 病棟の特徴	病棟の構造や設備、小児科ならではの特徴を学ぶ。	・小児病棟の特性を、成人との違いを考えながら理解している。
	【看護過程の展開】 受持ち患児の看護過程の展開	受持ち患児の状態をアセスメントし、発達段階に応じたケアを実践する。 家族を含めた看護過程を意識する。	・受持ち患児とコミュニケーションが図れ、必要な情報収集ができる。 ・収集した情報をアセスメントし、看護上の問題を明確にして、優先順位を考えることができる。 ・受持ち患児の状態や発達段階に合わせて、看護計画を立案できる。 ・看護問題を解決するために、積極的に患児と関わることができる。 ・臨地指導者や教員に相談できている。 ・家族を含めてアセスメントし、援助が実践できる。 ・子どもを 1 人の個人としてとらえ、尊重した態度で接している。 ・カンファレンスで、自分の看護を振り返ることができる。 ・他のメンバーの受持ち患児についての理解を深めている。
	【知識・技術】 小児看護における日常生活援助の実施 小児看護における基本的な技術を実施	環境整備や食事・排泄・睡眠・清潔・更衣・移動・遊びなど、発達段階に合わせた援助方法を学ぶ。 バイタルサイン測定や診察の介助、与薬の介助や検査・処置などの介助を通じて、小児看護における基本的な技術を身につける。 小児科における主な疾患と看護を理解する。	・発達段階に応じた食事、排泄、睡眠、清潔、更衣の援助ができる。 ・子どもにとっての遊びの意義を理解し、発達段階に応じた遊びを提供できる。 ・バイタルサイン測定や診察の介助、検査や処置の介助において、発達段階に応じたプレパレーションが実践できる。 ・積極的に実習に取り組んでいる。 ・入院しているさまざまな疾患について学び、児の状態に応じた看護を考えることができる。
	【小児科外来】 小児科外来での実習	小児科外来での実習を通じて、小児科外来に来る子どもの特徴や看護師の役割を理解する。 地域と病院の連携、および保健・福祉の連携について学ぶ。	・小児科外来の特徴を理解している。 ・小児科外来での看護師の役割を理解し、積極的に実習に取り組んでいる。 ・適切な感染予防対策を実践できる。 ・予防接種の援助を実施し、意義や援助方法を理解する。 ・健康診査の援助を通じて、安全な身体計測の方法を学び、成長・発達をアセスメントできる。 ・地域や保健、福祉との連携について考えることができる。

教育 内容	臨地実習	科目	母性看護学実習	単位数 (時間)	2単位 (90時間)	学年	専攻科1・2年
科目の 目標	1 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助、保健指導ができる。 2 妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深め、援助の必要性を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 3 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉との諸機関との関係について理解する。						
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論			評価 方法	出席、実習への取り組み、レポート・記録物、実習評価表(自己・病棟)		

時間	学習内容	ねらい	評価規準
90	【母性看護の特徴】 実習病棟の構造・設備・特徴について入院している対象の特徴 褥婦の看護に必要な情報、看護診断の実際について、褥婦の看護に必要な観察および技術	病棟や対象の特殊性について知り、褥婦の看護に必要な情報収集ができ、看護診断の実際を理解する。	病棟や対象の特殊性について学び、褥婦への看護に必要な情報を収集できる。 褥婦の看護診断の実際、褥婦の看護に必要な観察点および技術について理解している。
	【看護過程の展開】 受け持ち褥婦・児に対して、個別性に応じた看護過程を展開する。	受け持ち褥婦・新生児をウェルネスの視点でとらえ、個別性に応じた看護の必要性を理解する。それぞれが実践した看護についてカンファレンスを行うことで、自らの看護を振り返るとともに、学びの共有を行う。	受け持ち褥婦と適切なコミュニケーションをとり、アセスメントができる。 受け持ち褥婦・児の健康を維持・促進する看護計画を立案できる。 看護上の問題をあげ、具体的な目標を立てることができる。 看護問題を解決するために、褥婦・児の状態に応じた援助が適切に実践できている。 カンファレンスを行い、自分の看護について振り返ることができる。
	【知識・技術】 母性看護における基礎技術 妊産褥婦・新生児の基本的な援助 母性外来の特徴(妊婦健康診査・保健指導・助産外来等)	母性看護領域独自の看護や、妊産褥婦・新生児への基本的な援助について理解する。 母性外来の特徴を理解し、妊産褥婦の基本的な援助・保健指導を学ぶ。	妊産褥婦・新生児の特徴を考慮し、正常に経過するための看護が実践できる。 母子相互作用を理解し、対象の状況に応じた援助を考え、実践できる。 母性外来の特殊性を学び、妊婦健康診査や妊娠週数に応じた保健指導、助産外来の意義について理解している。